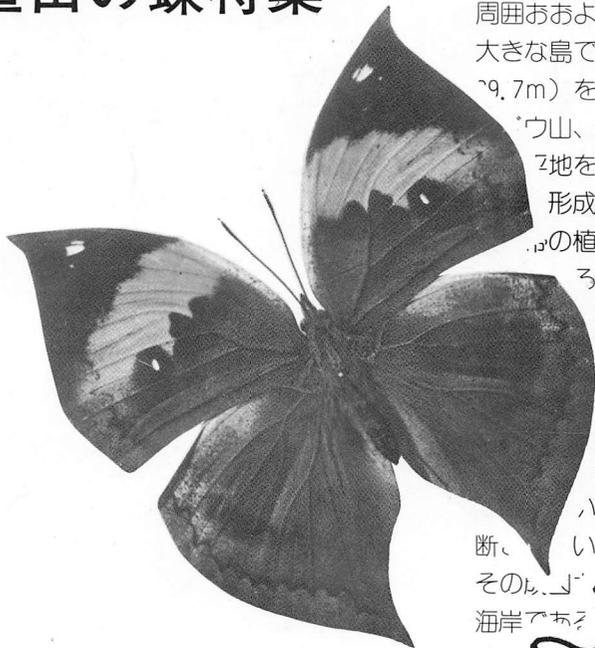


# ひろおひび

## 八重山の蝶特集

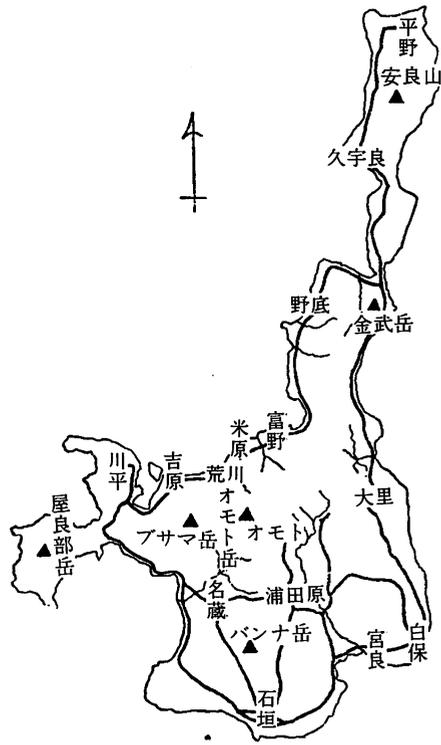


西表島は北緯24°15'から、東経123°40'から55、  
周囲およそ77km、面積322km<sup>2</sup>の沖縄本島に次ぐ  
大きな島である。それにもかかわらず、古見岳(4  
79.7m)を最高峰に、ハテルマの森(447.0m)、  
ウ山、南風布岳、御座岳と、東岸、西岸の少  
く平地を残して、ほとんどが複雑な起伏に富む  
地形を形成し、山岳が多い。その全体は、熱帯、  
の植物におおわれ、昼間もお暗く、うっ  
ろジャングルを成し、村落は大原、富原、  
とする東部海岸と、祖納、浦内  
の西部海岸のほんの一部に  
の村落を結ぶそれぞれ  
の海岸を結ぶ横断道路(極  
のみで、この偉大な自  
る人間の姿がうかが  
断、いるのとともに、  
その、  
海岸である、  
め、  
に植  
のよう起伏  
にふさわし  
最大面積を  
m以上、  
る。こ  
として名  
この地を訪れる観光客は年々増加の一途をたどつて  
いる。

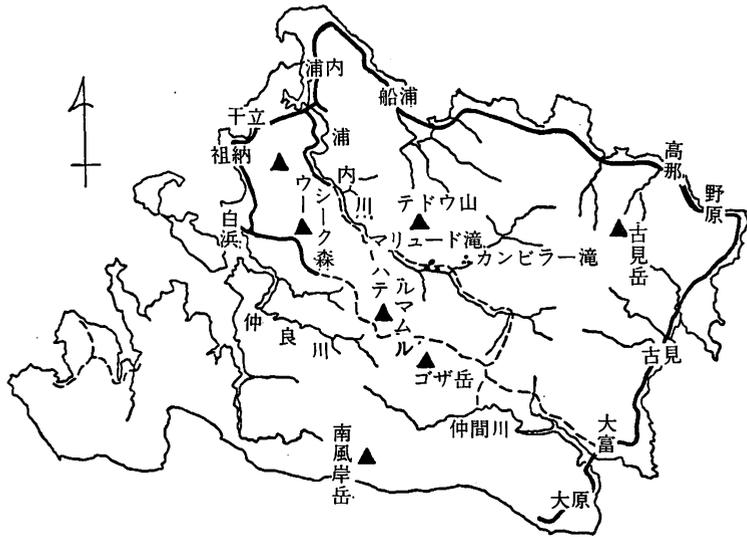
浦内川と並んで大きな川は東部の大富に流れこ  
中間川である。この中間川も、浦内川にはひけ  
をとらない大河川であるが、両者とも河口からの  
観光ボートが運航され、その景勝を楽しませてく  
れる。

1982  
NO. 6

播磨蝶友会



石垣島概念図



西表島概念図

# 八重山の蝶

Notes on the butterflies from the Yaeyama-Islands,  
with the list of butterflies collected by the author.

岩村 巖

1970年以降、過去3回にわたって6月と8月に主として石垣島と西表島において蝶を採集し、同時に若干の生態観察をおこなう機会が持てた。八重山の蝶相についてはこれまでも多数の報告があり、今さらという感もあるが、今回、八重山特集号を発刊するの機会に、これまでの記録をまとめてみる意味もあって、ここに、目録をつけてそのあらましを報告しようと思う。

## I. 日程

### 1. 第一回 (1970年8月5日～8月19日)

- 8月5日 伊丹—那覇—石垣 (17時20分着)
- 8月6日 石垣市～西表白浜港—祖納 (泊)
- 8月7日 祖納—星立—稲葉—祖納 (泊)
- 8月8日 祖納—星立—船浦～石垣市 (泊)
- 8月9日 石垣市…川良山…石垣市 (泊)
- 8月10日 石垣市～竹富港—東屋敷—仲筋～石垣市
- 8月11日 台風接近のため採集中止。
- 8月12日 石垣市…川平…米原…石垣市
- 8月13日 石垣市～西表島大原港—大富—仲間川上流—大原 (泊)
- 8月14日 大原—大原西方—大原港～石垣市 (泊)
- 8月15日 石垣市…富野—米原—吉原…石垣市 (泊)
- 8月16日 石垣市—那覇  
(以後、名護・伊豆味等をまわり、8月19日帰着。)

### 2. 第二回 (1973年6月9日～6月17日)

- 6月10日 伊丹—那覇—石垣～西表島大原港 (泊)
- 6月11日 大原—豊原—大原—大富—大原 (泊)
- 6月12日 大原—美原—古見—大富—大原 (泊)
- 6月13日 大原—大富—古見—大原～石垣港 (泊)
- 6月14日 石垣市…川良山…石垣市 (泊)
- 6月15日 石垣市…オモト—オモト岳—オモト…石垣市 (泊)
- 6月16日 石垣市…伊原間…富野…米原…川平…石垣市 (泊)
- 6月17日 石垣市—那覇—伊丹

### 3. 第三回 (1974年8月17日～8月28日)

- 8月17日 伊丹—那覇—石垣市 (泊)
- 8月18日 石垣市～西表島白浜港—祖納 (泊)
- 8月19日 祖納—星立—稲葉—星立—祖納 (泊)
- 8月20日 祖納—浦内～カンピラ～浦内—祖納 (泊)
- 8月21日 祖納—星立—稲葉—星立—祖納 (泊)
- 8月22日 祖納—白浜—祖納—星立—祖納 (泊)
- 8月23日 祖納—星立—祖納…白浜～石垣港 (泊)
- 8月24日 石垣市…白保—石垣市 (泊)
- 8月25日 石垣市…白保…石垣市～大原港 (泊)
- 8月26日 大原—古見—大原 (泊)
- 8月27日 大原—大富—大原 (泊)
- 8月28日 大原～石垣—那覇—伊丹

(＝航空機、…バス又はトラック、タクシー～船—徒歩)  
地名のうちアンダーラインは採集地を意味する。

## II. 八重山諸島概説

日本の南、鹿児島島と台湾をつなぐ大小140余の島々をまとめて南西諸島というが、これは大別して薩南諸島と沖縄諸島にわけられる。このうち一般に沖縄と呼ばれているのは南の沖縄本島から与那国島までの約60の島々をさし、総面積2,388km<sup>2</sup>、神奈川県とほぼ同じ大きさである。これら60の島々はその位置関係から北より沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島の3つにわけられ、後者2つをあわせて先島諸島と呼ぶこともある。

さて、八重山群島は北緯24度1分～25度58分30秒、東経122度56分～124度20分40秒間に点在する大小19の島々からなっており、一番近い石垣島でも鹿児島島から1,122km、那覇からでも429kmも離れた位置にあり、最西南端の与那国島から台湾までは260km余りしか離れていない。これらの島々の内で最も大きいのが西表島であり、周囲が77.018km、面積321.887km<sup>2</sup>あり、沖縄県では沖縄本島に次ぐ2番目に大きな島である。島内の約90%が国有林で重量たる山岳地帯を形成し、うっそうとした原生林で覆われている。島の大部分は第3紀層から成り、古見岳附近のみが古生層である。一般に地味はよく肥え、亜熱帯気候とあいまって植物の生育は極めて良好である。島の北西及び南東側には水量豊かな浦内川及び仲間川が流れ、これら両河川をはじ

めとして島内を流れる大小の河川の河口付近には広大な面積にヤエヤマヒルギ、メヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシ、マヤブシキ等のヒルギ林が発達し、特異なけいかんを示している。一方石垣島は周囲89.890km、面積258.343km<sup>2</sup>で人口約5万人、八重山の政治、経済、文化の中心として群島内ではもっとも早くから開けた島である。その海岸線は変化に富み、いたる所に入江や断崖をつくっている。島の中央には沖縄では最も高いオモト岳(標高526m)がそびえており、南北に低い山なみとなって山地が広がっている。パイナップルの栽培が盛んで、山の斜面といわずいたる所にパイナップル園がみられ、全琉球の80%を産出している。又、宮古島ほどではないにしてもサトウキビの栽培も盛んである。

八重山の島々は亜熱帯性気候であり、年間平均気温23.6℃、黒潮のえいきょうをうけて沖縄諸島では最も暑い。7月が最高で平均28.8℃、寒い1月でも7.9℃もあり、沖縄本島にくらべると四季の変化に乏しい。毎年5～6月が雨期で内地の梅雨に相当する。11月～2月までは雨量も比較的少ない。湿度は平均80%で極めてむし暑い。毎年7～9月にかけて台風が接近し大きな被害を出している。どの島にも年間を通じて花の絶えることがなく、ブッソウゲ、サンダンカ、デイゴ等の花が咲き乱れている。

### III. 蝶相概説

#### (1) Hesperiiidae について

オキナワヒロウドセセリ、コウトウシロシタセセリ、台湾アオバセセリ、アオバセセリ、クロセセリ、オオシロモンセセリ、ネッタアカセセリ、ユウレイセセリ、ヒメイチモンジセセリ、クロボシセセリ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、トガリチャバネセセリの13種の姿を見かけた。これらの内、クロボシセセリについては1974年に石垣島において下記の2♂♂をえている。

石垣市郊外(石垣島) 1974. 8. 17 1♂

白保 (石垣島) 1974. 8. 24 1♂

1頭は石垣市郊外の墓地で夕方に、もう1頭は白保の海岸で朝の10時頃に採集したものであり、いずれも新鮮な個体であった。同島で発生した個体であることは確実であるが、土着しているかどうかは不明である。1973年以降、八重山において毎年わずかではあるが採集されているらしい。

八重山に産する大型のセセリチョウであるアオバセセリ、台湾アオバセセリ、オキナワヒロウドセセリの3種については、もともとあまり個体数の多いものではないらしく、採集出来た個体もあまり多くな

った。特に6月にはほとんど姿を見なかった。八重山特産のセセリチョウであるコウトウシロシタセセリは、西表島、石垣島の両島においてその姿を見かけたが、産地は局在しており、西表島の稲葉以外個体数もそれほど多くなかった。飛び方はかなり敏捷であるが、同じ葉上に繰り返し静止する性質があり、この点ではダイミョウセセリ等と大変似かよった習性を示す。

オオシロモンセセリは8月には個体数が少なかったが6月にはかなりの個体数がみられた。6月の採集品はいずれも新鮮であり、食草のゲットウのある所では必ずずといていいほど本種の姿を見ることが出来た。5月下旬に新鮮なかなりの個体が採集されたという報告もあり(中谷・松本)、5月下旬～6月上旬にかけて1つの発生のピークがあるものと思われる。八重山においては2月下旬～3月上旬にかけて新鮮な個体が多数みられるとの報告もなされており(多田)、おそらく年数回の発生を繰り返していると思われる。同じように2月下旬～3月上旬に第1化が羽化するクロセセリについては、6月はむしろ個体数が少なく、夏期の方が個体数が多かった。

八重山に産する小形のセセリチョウ5種の内、もっとも普通に見られる種類はチャバネセセリとトガリチャバネセセリであり、路端や畑の周囲等でかなりの個体数をみかけることができた。同じような環境の所で採集できる残りのヒメイチモンジセセリ、イチモンジセセリ、ユウレイセセリの3種は上記2種にくらべてやや個体数が少ないようであり、中でもイチモンジセセリが最も少なかった。

#### (2) Papilionidae について

八重山においてもっとも普通にみられるアゲハチョウはカラスアゲハ、クロアゲハ、シロオビアゲハの3種である。このうち、クロアゲハは山地から海岸近くに至るまで広い範囲にわたって姿をみかけることが出来る。2月上旬中旬頃より発生しており、下旬にはすでに傷ついた個体が多いとのことであり(多田)以後連続的に発生を繰り返して成虫の羽化をみるらしく、夏期においては大破個体から羽化後間もないものまで色々な鮮度の個体がまざっていた。部落周辺のノブドウ等の花で吸蜜している個体も多かった。本州産の個体にくらべて♀の後翅の赤色半月紋の発達がいちぢるしく、採集品の中にはまるで別種ではないかと思あやまる程の見事な個体もある。特に1973年6月15日採集の1♀は後翅第2室の2/3までが赤紋を現わし、一部第3室の上部にまで入りこんでいる異常な個体であった。カラスアゲハも島内至る所でその姿をみうけることが

でき、クロアゲハと共にブッソウゲ等で吸蜜している個体も多かった。翅表の青藍色鱗の発達は外縁にまで及んでおり、台湾カラスアゲハに似た外観を示している。一方シロオビアゲハについては石垣島においては全島にわたって広く分布しており、8月に白保で無数の本種が飛びかうさまを目撃しあぜんとした記憶がある。民家の生垣に利用されているサルカケミカンから卵や幼虫もかなり発見出来た。その他川平、川良山、米原等の部落内でも多数の個体が発生していたが、西表島には極めて少なく、6月10日に大富で1♀を得たのみで、あとは目撃すらできなかった。本種の♀には2型があることがよく知られているが、喜界島や沖永良部島においてかなり採集した経験のある Pammon 型は八重山においてはほとんど出現しないらしく、この度の採集品はすべて♂型の♀であった。

同じ *Papilio* 属でも本州あたりではもっとも普通にみられるアゲハチョウは八重山においてはあまり多いものではないらしく、特に夏期においては極端に個体数が少なくなるようである。西表島で2♂♂を採集した以外、石垣島においては姿すらみかけられなかった。又、奄美大島や沖縄本島で普通にみられるナガサキアゲハやモンキアゲハについても八重山ではその個体数が極端に少なく、今回の3回の採集調査においても全然姿をみなかった。これまでに西表島において採集されているナガサキアゲハは特に♀において白化の傾向がいちぢるしいものであるらしいが、かなり珍しいものようで、これまでの採集報告文においても本種の名前の含まれていないものが多い。本種が八重山に極めて少ない原因としては、本種の食草が主として栽培性のミカン類であり、八重山におけるミカン類の栽培がほとんど皆無であることが最も大きいものと思われる。同じ *Papilio* 属でも八重山に多数みられるサルカケミカンを好んで食べるシロオビアゲハが石垣島や竹富島に多産するのと好対称である。

八重山に産する *Graphium* 属2種の内アオスジアゲハは極めて個体数が多く、山地より平地に至るまで全島にわたって広くその姿をみうけることが出来る。オキナワチョウチクトウ、ノブドウ等の花に群れ集まっているのにしばしば出くわしたが、♂は水辺に集まっている場合も多い。一方、ミカドアゲハは思った程には個体数は多くなかった。70年に西表で1♀、石垣島で5♂2♀、74年に西表で3♂1♀を採集した以外、74年の6月には1頭も採集することが出来なかった。同じ8月に石垣島に多産したという報告もあり(中村・久保)、年によりかなりの変動があるらしい。八重山においてはすでに2月下旬に新鮮な個体はかなり見られる

らしく(多田)、又5月にも羽化直後の多数の個体をみかけたという報告(中谷)もあり、年間を通じて3回以上の発生を繰り返しているものと思われる。

かつては土着が疑問視されていたベニモンアゲハは、1960年代の後半より次第に採集報告例が増加しており、今回もかなりの個体を西表島祖納、大原、星立、古見、石垣島川良山、米原、川平、オモト、白保等で得ている。確実に土着し分布を広げているものと思われる。

### (3) Pieridae について

八重山に棲息する *Catopsilia* 3種のうち、個体数がかつとも多かったのはウラナミシロチョウであった。西表島、石垣島のいずれにおいても普通に見られるが、特に74年の石垣島白保では多数の個体が次々と花に吸蜜に来るのを見かけた。飛躍はかなり敏速であるが、花に来ることも多く、採集はそれほど困難な種類ではない。ギンモンウスキチョウとムモンウスキチョウはウラナミシロチョウにくらべると個体数はかなり少ないようであり多くをみかけなかった。特に6月には西表、石垣いずれにおいても全然姿を見なかった。飛び方は極めて敏速で高所を飛ぶことが多く、採集はかなり困難であるが、食樹のまわりは比較的ゆるやかに飛ぶようである。西表島稲葉でタガヤサンに産卵している♀の姿を見かけた。8月の採集個体は新鮮な個体から大破個体まで色々な程度のもが含まれていた。

*Appias* 属については、これまでにかなりの迷蝶が採集されているとの情報をえていたので、カワカミシロチョウ、台湾シロチョウ、イシガケシロチョウ等の迷蝶の採集をかなり期待して出かけたのであるが、ナミエシロチョウ以外採集出来なかった。ナミエシロチョウの個体数はかなり多く、西表島、石垣島、竹富島の全島にわたり山地より平地にかけて広く分布している。かなり敏速に飛び回り、花に来る時以外採集はむづかしい。3回の採集調査のいずれにおいても採集できたが、6月には少なかった。8月の川良山には多産し新鮮な個体が多かった。多田による2月下旬~3月上旬にかけての調査報告によれば、♀はほとんど新鮮であったといい、2月下旬頃より第1化の羽化がはじまるらしい。5月にも羽化直後の個体を多数採集している報文があり、3月~11月頃にかけて繰り返し発生をしているものと思われる。

ツマベニチョウについては八重山においては少ないが、高所をダイナミックに飛躍しなかな下へおりに来ずブッソウゲやオキナワキョウチクトウ等の花に吸蜜に来る時以外採集はかなり困難である。石垣島川平、米原、竹富島東屋敷においてかなりの個体数

をみかけ、東屋敷では早の産卵行動も観察できた。

キチョウとタイワンキチョウは全島にわたって広く分布しており、個体数も極めて多い。

#### (4) Danaidae について

八重山において確実に土着が確認されているマグラチョウ科5種の内、もっとも普通にみられる種類はスジグロカバマダラとリュウキュウアサギマダラである。

島内至る所でその姿をみかけたが特に西表島祖納や石垣島米原において早朝吸蜜にやって来た個体が数百頭花に群がっているさまは壮観であった。両種とも年間を通じて間断なく発生を繰り返しているらしく、すでに1月においても新鮮な個体が多数発生しているという報告もある。

当地方に産するマグラチョウの中では最大の種であるオオゴマダラは、前2種ほど個体数は多くはないが、島内に広く分布し普通にみられる種類である。樹林の周辺に多く、樹林間に出来ている空間等には数頭が群れ飛んでいる姿をよく見かけた。飛び方は極めて緩慢で、流れるがごとく原生林の樹間を飛びかう姿は実に優雅であるが、いったんおどろくと急激に上昇し、その姿を消してしまう。周年発生しているようで、1月～12月にいたるどの採集報告文をみても本種の新鮮な個体の採集報告が含まれている。

一方、カバマダラについては、上記3種にくらべて比較的個体数が少なく、発生地も極在する傾向が強くみられる。この度の採集調査においても8♂♀を採集したのみで、これ以外に姿を見なかった。奄美大島や徳之島などにはかなり普通にみられる本種が八重山において少ないのはやや意外の感じがしたが、これは本種の食草であるトウワタの栽培とも関係があるように思われる。事実、オオゴマダラやリュウキュウアサギマダラの食草であるホウライケマヤツルモウリンカ等のガガイモ科植物が八重山には全島にわたって広くその姿がみられるのに対して、栽培植物であるトウワタの姿があまり見られなかった。食草さえ十分にあれば大発生する条件は備わっているはずであり、事実5月に野生化したトウワタに大発生していたという報告がある(中谷、松本)。

八重山に土着しているマグラチョウ科5種の内、その分布北限がもっとも高緯度にあるアサギマダラは八重山においては極めて少なく、1頭目撃したのみである。なお、この度の採集旅行において迷蝶であるウスコモンアサギマダラ1♂を採集しているので、この機会に報告しておきたいと思う。

西表島古見 1974年8月26日 1♂

採集個体はほとんど破損していないがやや飛び古した感があり、午後2時頃大富～古見間の道端でえたものである。

#### (5) Satyridae について

3回の採集旅行において採集出来たジャノメチョウはマサキウラナミジャノメ、ヤエヤマウラナミジャノメ、シロオビヒカゲ、ヒメジャノメ、ウスイロコノマチョウの5種である。これら5種のうちで、その産地が最も極在しており個体数も少ないのがシロオビヒカゲであった。西表島古見及び祖納のタケ林で姿を見かけることが出来たが他の地域ではまったく姿を見かけなかった。食草の分布状態から見て西表島にはまだ多産する場所があるものと思われるが発見出来なかった。又、この度の採集調査においては西表島でしか姿を見なかったが、近年石垣島においても採集されたという報告がなされている。3月上旬より出現するらしいが、いつでもみられるものではないようで、6月に多かった古見においても8月には全然姿をみかけなかった。他の8月の採集報告文を見ても多産したという報告はなされていない。5月下旬にも少ないという。

八重山に産するYpthima属2種のうち、マサキウラナミジャノメは石垣島、西表島の低地の林内や周辺の草地等に分布しているが、ヤエヤマウラナミジャノメはやや山地性となり、樹林内を好んで棲息場所としている。6月よりも8月の方が多かったが、いずれの場合も比較的新鮮なものが多かった。

本州等に発生する個体に比べて裏面の黒化がいちぢるしく、したがって白帯がより明瞭に目につく等の特徴により別亜種として取りあつかわれているヒメジャノメについては、西表島、石垣島のいずれにおいても極めて普通に姿をみかけることが出来た。山地より海岸近くに至るまで広く分布しており、八重山に産する最も普通のジャノメチョウである。ウスイロコノマチョウも又、ヒメジャノメ程個体数は多くないが両島にわたって広く分布している種類であり、樹林間の草地や墓地等の空地で姿を見かけた。夕方うす暗くなってからでも活発に活動しており、夜間屋内に飛び込んで来る個体もあるらしい。1973年6月13日と74年8月23日の採集個体5♂1♀のうち2♂♂は屋内でつかまえたものである。

#### (6) Nymphalidae について

別記リストで示してあるようにツマグロヒョウモン、ウラベニヒョウモンモドキ、ヤエヤマイチモンジ、リュウキュウミスジ、ルリタテハ、ヒメアカタテハ、タ

テハモドキ、アオタテハモドキ、メスアカムラサキ、リュウキュウムラサキ、ヤエヤマムラサキ、コノハチヨウ、イシガケチヨウの13種を採集し、他にカンピラの滝でスミナガシを目撃した。これらの内、西表島、石垣島においてもっとも普通にみられるのがリュウキュウミスジ、イシガケチヨウ及びタテハモドキの3種である。山地帯より平地に至るまで各地で姿をみうけることが出来る。これら3種に次いで比較的個体数の多かったのがメスアカムラサキとアオタテハモドキであった。両種とも民家近くの畑地等で姿を見かけたが、アオタテハモドキは8月に、メスアカムラサキはむしろ6月の方が多かった。アオタテハモドキの♂にはかなりの強い土地占有性があるらしく、石垣島白保の畑地で観察したところでは1頭の♂がそのテリトリーと考えられる地域内に侵入して来る他の♂を追飛し追い出そうとする行動を盛んに示していた。ところがこの♂を採集してしまうとすぐに別の個体がそれにとってかわり、同じ場所と同じような行動を示すのがみられた。採集出来たメスアカムラサキ、アオタテハモドキとも新鮮な個体が多かった。

リュウキュウムラサキとヤエヤマムラサキについては、秋期にはかなりの個体数が得られるらしいが、この度の採集調査では74年の8月にリュウキュウムラサキを1♂1♀、70年8月にヤエヤマムラサキを2♂♂得たのみで極めて少なかった。リュウキュウムラサキは石垣市郊外と白保で、ヤエヤマムラサキは川良山の溪流ぞいの路上と吉原で採集したものであり、西表島では両種ともに姿をみかけなかった。ヤエヤマイチモンジもそれ程個体数の多い種類ではないが、やや山地性の種類であるらしく、平地ではあまり姿をみかけなかった。西表島稲葉でかなり個体数が多かった以外、一箇所ですべての個体をみかけることはなかった。

コノハチヨウも両島で姿を見かけたが、やはり個体数は少なく、その棲息地も山地の溪流ぞいに遍在しているようである。飛躍はかなり敏速で飛躍中の個体の採集はかなり困難であるが、樹林内の樹液や発酵している果実等に集まる性質があり、このような時には比較的容易に採集することが出来る。奄美大島や屋久島において最も多いタテハチヨウ科の種類の1つであるツマグロヒョウモンが八重山において極端に少なかったのは以外であったが、食草の関係があるのかもしれない。川良山で2♂♂を採集した以外姿を見なかった。ルリタテハ、ヒメアカタテハも個体数は少なかった。

1973年6月の採集旅行の際、石垣市付近でウラベニヒョウモンモドキが偶発しているのに出くわした。市内の民家の庭等に植えられているヤナギの一種に発生

していたもので、朝方と夕方、食草のまわりを飛びまわっているかなりの個体の姿を見かけた。10時頃をすぎると山地帯に移動するのか一時姿がみられなくなるが、夕方再び食草のまわりに姿を現わし、早の産卵もこの時間帯におこなわれるらしい。この年はかなりの個体数をみうけたが、翌年の8月には全然姿をみかけることが出来なかったことから、一時的な偶発であつたろうと思われる。

#### (7) Lycaenidae について

八重山に産するシジミチヨウの中でもっとも多くその姿をみかけたのがヤマトシジミ、アマミウラナシジミ、タイワンクロボシシジミの3種であった。ヤマトシジミは主として部落周辺や海岸近くの草地や路端等に多くみられるのに対し、後の2種は部落周辺の樹林内や山地の林間等でその姿を見かけた。いずれの種も周年発生しているらしく、冬期にもかなりの個体数を見るという報告がある。石垣市周辺の海岸付近で姿を見ることが出来るといわれているハマヤマトシジミやシルビアシジミについてはかなり丹念に調べてみたが、まったく姿をみかけなかった。

タイワンルリシジミとオジロシジミについても西表島、石垣島の両島においてかなりの個体数を見ることが出来た。山地帯より平地に至るまで広い分布域をもっており、特に石垣島の川良山には多かった。ルリウラナシジミは個体数こそ決して少なくなかったが、産地はかなり限定されており、又、時期によっても個体数にかなりの差があるようで、8月にかなりの個体の発生を確認した場所においても6月にはほとんどその姿を見ることが出来なかった。山の斜面等にもみられるマメ科植物の周辺を盛んに飛びまわっていたが、♂は翅表の光沢のある青色がキラキラとかがやき、実に美しいものであった。リュウキュウウラボシシジミはかなり山地性の種類であり、西表島の稲葉で2♂、浦内川上流のカンピラで2♂3♀、の計7♂♀をえたのみである。石垣島では姿を見なかった。薄暗い樹林内を弱々しく飛び発見すると採集は容易である。

ムラサキシジミ、ヒメウラナシジミ、ウラナシジミの3種は個体数も極めて少なく採集した個体以外ほとんど姿を見なかった。

#### IV. 各種の記録

##### セセリチヨウ科 HesperIIDae

##### 1. オキナワヒロウドセセリ

*Hasora chromus inermis* ELWES et EDWARDS

西表島： 稲葉 2♂♂ 7. VIII. 70



## アゲハチョウ科 Papilionidae

1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum*

FRUHSTORFER

西表島:	祖納	3♂2♀	6. VIII. 70
	星立	2♂1♀	7. VIII. 70
	稲葉	1♂	8. VIII. 70
	星立	1♂	8. VIII. 74
	カンピラ	1♂	20. VIII. 74
	祖納	1♂	21. VIII. 74
	星立	1♂	23. VIII. 74
	古見	1♂	26. VIII. 74
	大富	1♂1♀	27. VIII. 74
石垣島:	川良山	9♂7♀	9. VIII. 70
	川平	3♂♂	12. VIII. 70
	富野	1♂1♀	12. VIII. 70
	吉原	4♂1♀	15. VIII. 70
	オモト	2♂1♀	15. VI. 73
竹富島:	東屋敷	1♂	10. VIII. 70

2. ミカドアゲハ *Graphium doson perillus*

FRUHSTORFER

西表島:	祖納	1♀	8. VIII. 70
	古見	1♂1♀	12. VI. 73
	大富	2♂1♀	27. VIII. 74
石垣島:	川良山	3♂1♀	9. VIII. 70
	〃	1♀	13. VIII. 70
	米原	2♂♂	15. VIII. 70

3. ベニモンアゲハ *Pachloipta aristolochiae*

inrerpositus FRUHSTORFER

西表島:	祖納	5♂2♀	6. VIII. 70
	星立	1♂目撃	7. VIII. 70
	大富	1♀	10. VI. 73
	古見	1♀	12. VI. 73
石垣島:	川良山	1♂	9. VIII. 70
	米原	1♂1♀	15. VIII. 70
	川平	1♂	12. VIII. 70
	オモト	1♂	15. VI. 73
	米原	2♀♀	16. VI. 73
	白保	1♂	24. VIII. 74
	白保	1♂1♀	25. VIII. 74

## 4. ジャコウアゲハ

*Byasa alcinous bradanus* FRUHSTORFER

西表島:	祖納	2♂1♀	6. VIII. 70
	稲葉	1♂	7. VIII. 70

古見 1♂1♀ 13. VI. 73

祖納 1♂2♀♀ 21. VIII. 74

古見 1♂1♀ 26. VIII. 74

石垣島: 米原 3♂3♀♀ 15. VIII. 70

川良山 1♂ 14. VI. 73

竹富島: 仲筋 1♂ 10. VIII. 70

5. アゲハチョウ *Papilio xuthus* LINNAEUS

西表島: 祖納 1♂ 6. VIII. 70

稲葉 1♂ 7. VIII. 70

## 6. シロオビアゲハ

*Papilio helenus nicconicolens* BUTLER

西表島: 大富 1♀ 10. VI. 73

石垣島: 川良山 4♂2♀♀ 9. VIII. 70

川平 8♂1♀ 12. VIII. 70

富野 4♂4♀♀ 12. VIII. 70

米原 1♂ 15. VI. 70

石垣市 6♂♂ 17. VIII. 74

白保 5♂2♀♀ 24. VIII. 74

白保 16♂9♀♀ 25. VIII. 74

竹富島: 東屋敷 18♂15♀♀ 10. VIII. 70

## 7. クロアゲハ

*Papilio protenor liukiensis* FRUHSTORFER

西表島: 祖納 1♂ 6. VIII. 70

星立 2♂♂ 8. VIII. 70

祖納 5♂3♀♀ 18. VIII. 74

稲葉 2♂♂ 19. VIII. 74

カンピラ 1♀ 20. VIII. 74

祖納 3♂4♀♀ 21. VIII. 74

星立 1♂ 23. VIII. 74

石垣島: 川良山 1♂ 9. VIII. 70

米原 1♂3♀♀ 15. VI. 73

オモト 1♂2♀♀ 15. VI. 73

8. カラスアゲハ *Papilio bianor junia* JORDAN

西表島: 祖納 4♂2♀♀ 6. VIII. 70

稲葉 3♂2♀♀ 7. VIII. 70

星立 2♂3♀♀ 7. VIII. 70

白浜 10♂3♀♀ 18. VIII. 74

祖納 8♂♂ 19. VIII. 74

カンピラ 1♂1♀ 20. VIII. 74

星立 9♂7♀♀ 21. VIII. 74

祖納 3♂3♀♀ 22. VIII. 74

古見 1♂ 26. VIII. 74

石垣島： 川良山 2♂♂1♀ 13. VIII. 70  
 富野 4♂♂2♀♀ 12. VIII. 70  
 川良山 2♂♂ 9. VIII. 70  
 吉原 1♂ 15. VIII. 70  
 オモト 7♂♂ 15. VI. 73

石垣島： 富野 3♂♂1♀ 12. VIII. 70  
 川良山 1♂ 13. VIII. 70  
 米原 3♂♂ 15. VIII. 70  
 吉原 6♂♂1♀ 15. VIII. 70  
 米原 1♂ 16. VI. 73  
 オモト 1♂ 15. VI. 73  
 竹富島： 仲筋 8♂♂5♀♀ 10. VIII. 70

シロチョウ科 Pieridae

1. キチョウ *Eurema hecabe mandarina* de l'ORZA

西表島： 祖納 2♂♂1♀ 6. VIII. 70  
 稲葉 3♂♂3♀♀ 7. VIII. 70  
 大富 1♂ 10. VI. 73  
 古見 1♂ 12. VI. 73  
 稲葉 1♀ 19. VIII. 74  
 星立 3♂♂ 21. VIII. 74  
 祖納 3♂♂5♀♀ 22. VIII. 74  
 大原 8♂♂5♀♀ 25. VIII. 74  
 大富 26♂♂18♀♀ 27. VIII. 74  
 石垣島： 川良山 2♂♂ 9. VIII. 70  
 米原 1♂1♀ 15. VIII. 70  
 川良山 7♂♂ 14. VI. 73  
 米原 3♂♂ 16. VI. 73  
 石垣市 3♂♂ 17. VIII. 74

4. ナミエシロチョウ *Appias paulina* FRUHSTORFER

西表島： 稲葉 2♂♂1♀ 17. VIII. 70  
 星立 2♂♂2♀♀ 18. VIII. 70  
 大原 2♂♂ 13. VIII. 70  
 大富 1♀ 10. VI. 73  
 カンピラ 2♀♀ 20. VIII. 74  
 石垣島： 米原 3♂♂4♀♀ 15. VIII. 70  
 吉原 3♂♂1♀ 15. VIII. 70  
 川良山 12♂♂2♀♀ 9. VIII. 70  
 川平 5♂♂2♀♀ 12. VIII. 70  
 富野 4♂♂4♀♀ 12. VIII. 70  
 川良山 2♂♂ 13. VIII. 70  
 川良山 1♀ 14. VI. 73  
 石垣市 1♂ 17. VIII. 74  
 竹富島： 仲筋 3♂♂1♀ 10. VIII. 70

2. タイワンキチョウ

*Eurema blanda arsakia* FRUHSTORFER

西表島： 大原 3♂♂1♀ 13. VIII. 70  
 祖納 1♂ 7. VIII. 70  
 古見 1♂1♀ 11. VI. 73  
 大富 5♂♂ 10. VI. 73  
 古見 3♂♂1♀ 12. VI. 73  
 祖納 1♀ 18. VIII. 74  
 稲葉 1♂ 19. VIII. 74  
 星立 1♂1♀ 21. VIII. 74  
 白浜 1♂1♀ 22. VIII. 74  
 大原 3♂♂2♀♀ 27. VIII. 74  
 石垣島： 富野 3♂♂ 12. VIII. 70  
 川平 1♀ 2. VIII. 70  
 川良山 2♂♂1♀ 13. VIII. 70  
 川良山 5♂♂1♀ 14. VI. 73  
 石垣市 1♀ 17. VIII. 74  
 白保 1♀ 24. VIII. 74

5. ウラナミシロチョウ *Catopsilia pyranthe* LINNAEUS

西表島： 星立 5♂♂3♀♀ 8. VIII. 70  
 古見 1♀ 16. VI. 73  
 大原 1♂ 13. VI. 73  
 石垣島： 富野 3♂♂1♀ 12. VIII. 70  
 川平 2♂♂3♀♀ 12. VIII. 70  
 米原 2♂♂1♀ 15. VIII. 70  
 吉原 1♂1♀ 15. VIII. 70  
 米原 1♂1♀ 16. VI. 73  
 白保 4♂♂4♀♀ 25. VIII. 74  
 白保 12♂♂6♀♀ 24. VIII. 74  
 竹富島： 仲筋 7♂♂5♀♀ 10. VIII. 70

3. ツマベニチョウ

*Hebomoia glaucippe cincia* FRUHSTORFER

西表島： 祖納 2♂♂1♀ 6. VIII. 70  
 舟浦 1♂ 12. VIII. 70  
 古見 1♂ 12. VI. 73

6. ギンモンウスキチョウ *Catopsilia pomona* FABRICIUS

西表島： 祖納 3♂♂3♀♀ 8. VIII. 70  
 祖納 8♂♂4♀♀ 6. VIII. 70  
 稲葉 5♂♂2♀♀ 7. VIII. 70  
 星立 1♂ 19. VIII. 74  
 石垣島： 川良山 1♂ 9. VIII. 70  
 富野 2♂♂1♀ 12. VIII. 70  
 川平 4♂♂1♀ 12. VIII. 70

7. ムモンウスキチョウ *Catopsilia crocale* CRAMER

西表島： 祖納 2♂♂ 8. VIII. 70  
 星立 3♂♂1♀ 19. VIII. 74

8. モンキチョウ *Colias erate poliographus*

MOTSCHULSKY

石垣島： 白保 1♀ 24. VIII. 74

## マダラチョウ科 Danaidae

1. カバマダラ *Panlymnas chrysippus* LINNAEUS

西表島： 祖納 1♂ 19. VIII. 74  
 星立 1♂ 21. VIII. 74  
 白浜 1♂ 22. VIII. 74  
 石垣島： 川平 1♂ 12. VIII. 70  
 米原 1♀ 16. VI. 73  
 石垣市 1♀ 17. VIII. 74  
 白保 1♀ 25. VIII. 74  
 白保 1♂ 24. VIII. 74

2. スジグロカバマダラ *Salatura genutia* CRAMER

西表島： 祖納 8♂♂4♀♀ 6. VIII. 70  
 稲葉13♂♂15♀♀ 7. VIII. 70  
 星立 4♂♂4♀♀ 8. VIII. 70  
 大富 13♂♂11♀♀ 10. VI. 73  
 古見 8♂♂8♀♀ 12. VI. 73  
 古見 1♂2♀♀ 11. VI. 73  
 大原 15♂♂4♀♀ 11. VI. 73  
 祖納 8♂♂5♀♀ 19. VIII. 74  
 カンピラ 1♂1♀ 20. VIII. 74  
 星立 1♂2♀♀ 21. VIII. 74  
 祖納 3♂♂ 22. VIII. 74  
 星立 1♀ 23. VIII. 74  
 大原 2♂♂1♀ 25. VIII. 74  
 古見 1♂1♀ 26. VIII. 74  
 大富 6♂♂8♀♀ 24. VIII. 74  
 石垣島： 川良山 6♂♂4♀♀ 9. VIII. 70  
 米原 16♂♂8♀♀ 15. VIII. 70  
 川良山 3♂♂6♀♀ 14. VI. 73  
 オモト 7♂♂ 5♀♀ 15. VI. 73  
 白保 8♂♂5♀♀ 24. VIII. 74  
 白保 5♂♂5♀♀ 25. VIII. 74  
 竹富島： 仲筋 6♂♂4♀♀ 10. VIII. 70

## 3. リュウキュウアサギマダラ

*Redena similis* LINNAEUS

西表島： 祖納 4♂♂1♀ 6. VIII. 70

稲葉 5♂♂1♀ 7. VIII. 70

星立 5♂♂5♀♀ 8. VIII. 70

大原 1♂ 13. VIII. 70

古見 8♂♂4♀♀ 12. VI. 73

古見 2♂♂4♀♀ 11. VI. 73

大富 3♂♂4♀♀ 10. VI. 73

祖納 7♂♂6♀♀ 19. VIII. 74

白浜 1♂ 18. VIII. 74

カンピラ 2♂♂2♀♀ 20. VIII. 74

星立 3♂♂1♀ 21. VIII. 74

白浜 4♂♂5♀♀ 22. VIII. 74

星立 2♂♂ 23. VIII. 74

大富 2♂♂2♀♀ 27. VIII. 74

石垣島： 富野 5♂♂4♀♀ 12. VIII. 70

川良山 2♂♂ 13. VIII. 70

米原 1♂ 15. VIII. 70

米原 5♂♂3♀♀ 16. VI. 73

オモト 1♂1♀ 15. VI. 73

川良山 1♂ 15. VI. 73

白保 1♂1♀ 24. VIII. 74

白保 1♂ 25. VIII. 74

## 4. ウスコモンアサギマダラ

*Tirumala limniace* CRAMER

西表島： 古見 1♂ 26. VIII. 74

5. オオゴマダラ *Idea leuconoe liukiensis* HOLLAND

西表島： 大原 1♂ 13. VIII. 70

星立 2♂♂ 8. VIII. 70

稲葉 4♂♂2♀♀ 7. VIII. 70

祖納 1♂ 6. VIII. 70

古見 1♀ 11. VI. 73

白浜 1♀ 18. VIII. 74

星立 2♂♂ 1♀ 21. VIII. 74

祖納 1♀ 22. VIII. 74

古見 4♂♂ 3♀♀ 26. VIII. 74

石垣島： 吉原 2♂♂ 1♀ 15. VIII. 70

富野 2♂♂ 1♀ 12. VIII. 70

川良山 1♂ 9. VIII. 70

米原 1♂ 16. VI. 73

白保 1♂ 1♀ 25. VIII. 74

## ウラギンシジミ科 Curetidae

1. ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* de

NICÉVILLE

西表島： 祖納 1♀ 18. VIII. 74

古見 1♂ 26. VIII. 74

シミチヨウ科 Lycaenidae

1. ムラサキシジミ *Narathura japonica* MURRAY

西表島: カンピラ 1♂ 20. VIII. 74

星立 1♂ 21. VIII. 74

2. ウラナミシジミ *Lampides boeticus* LINNAEUS

西表島: 祖納 1♀ 22. VIII. 74

竹富島: 仲筋 1♂ 10. VIII. 70

3. オジロシジミ *Euchrysops cnejus* FABRICIUS

西表島: 祖納 3♂♂3♀♀ 6. VIII. 70

古見 8♂♂5♀♀ 11. VI. 73

古見 11♂♂10♀♀ 12. VI. 73

大富 1♀ 10. VI. 73

大原 1♀ 13. VI. 73

白浜 1♀ 22. VIII. 74

大原 1♂ 25. VIII. 74

古見 2♂♂2♀♀ 26. VIII. 74

石垣島: 川良山 16♂♂8♀♀ 9. VIII. 70

川良山 2♂♂1♀ 14. VI. 73

白保 1♂ 24. VIII. 74

4. ヒメウラナミシジミ *Prosotas nora kanoi* OMOTO

古見 6♂♂2♀♀ 26. VIII. 74

石垣島: 川良山 1♂ 13. VIII. 70

川良山 1♂ 9. VIII. 70

5. ルリウラナミシジミ *Jamides bochus ishigakianus*

西表島: SHIRŌZU

西表島: 古見 1♂ 12. VI. 73

星立 1♂ 19. VIII. 74

星立 12♂♂4♀♀ 21. VIII. 74

祖納 2♂♂1♀ 22. VIII. 74

古見 2♂♂4♀♀ 26. VIII. 74

6. アマミウラナミシジミ

*Nacaduba kurava septentrionalis* SHIRŌZU

西表島: 稲葉 4♂♂2♀♀ 7. VIII. 70

大原 3♂♂2♀♀ 13. VIII. 70

古見 4♀♀ 11. VI. 73

大富 2♂♂ 10. VI. 73

稲葉 2♂♂ 21. VIII. 74

星立 4♂♂2♀♀ 19. VIII. 74

カンピラ 4♂♂1♀ 20. VIII. 74

大原 1♂ 25. VIII. 74

古見 3♂♂2♀♀ 26. VIII. 74

石垣島: 川良山 3♂♂1♀ 13. VIII. 70

米原 1♂ 15. VIII. 70

オモト 1♂ 15. VI. 73

7. ヤマトシジミ *Zizeeria maha okinawana* MATSUMURA

西表島: 祖納 1♂ 6. VIII. 70

古見 8♂♂1♀ 16. VI. 73

大原 18♂♂3♀♀ 13. VI. 73

祖納 1♂ 18. VIII. 74

星立 4♂♂6♀♀ 19. VIII. 74

稲葉 2♂♂ 21. VIII. 74

祖納 6♂♂8♀♀ 22. VIII. 74

星立 5♂♂9♀♀ 23. VIII. 74

大原 3♂♂4♀♀ 25. VIII. 74

古見 9♂♂6♀♀ 26. VIII. 74

大富 3♂♂1♀ 27. VIII. 74

石垣島: 川良山 2♂♂ 9. VIII. 70

川良山 1♀ 14. VI. 73

米原 1♀ 16. VI. 73

石垣市 4♂♂3♀♀ 17. VIII. 74

白保 4♂♂6♀♀ 24. VIII. 74

白保 1♂ 25. VIII. 74

竹富島: 東屋敷 3♂♂1♀ 10. VIII. 70

8. リュウキュウウラボシシジミ

*Pithecops corvus ryukyuensis* SHIRŌZU

西表島: 稲葉 2♂♂ 7. VIII. 70

カンピラ 2♂♂3♀♀ 20. VIII. 74

9. タイワンルリシジミ

*Celastrina puspa umenonis* MATSUMURA

西表島: 稲葉 1♂ 7. VIII. 70

祖納 1♂ 9. VIII. 70

大原 7♂♂1♀ 13. VIII. 70

カンピラ 3♀♀ 20. VIII. 74

石垣島: 川良山 10♂♂3♀♀ 9. VIII. 70

富野 1♂ 12. VIII. 70

米原 2♂♂3♀♀ 15. VIII. 70

吉原 1♂ 15. VIII. 70

10. タイワンクロボシシジミ

*Megisba malaya iwasakii* MATSUMURA

西表島: 祖納 1♂1♀ 6. VIII. 70

稲葉 5♂♂4♀♀ 7. VIII. 70

大原	5♂♂	3♀♀	13.	VIII.	70	
古見	2♂♂	4♀♀	12.	VI.	73	
白浜	2♂♂		18.	VIII.	74	
祖納	5♂♂	2♀♀	19.	VIII.	74	
カンピラ	1♀		20.	VIII.	74	
白浜	1♂	3♀♀	22.	VIII.	74	
星立	4♀♀		23.	VIII.	74	
大原	1♀		25.	VIII.	74	
古見	6♂♂	4♀♀	26.	VIII.	74	
大富	5♂♂	5♀♀	27.	VIII.	74	
星立	5♂♂	4♀♀	21.	VIII.	74	
石垣島:	川良山	4♂♂	2♀♀	9.	VIII.	70
	川良山	3♂♂	9♀♀	13.	VIII.	70
	石垣市	4♂♂	4♀♀	17.	VIII.	74
	白保	6♂♂	8♀♀	24.	VIII.	74
	白保	1♂	3♀♀	25.	VIII.	74

## タテハチヨウ科 Nymphalidae

1. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* LINNAEUS

石垣島:	川良山	2♂♂	9.	VIII.	70
------	-----	-----	----	-------	----

## 2. ウラベニヒョウモンモドキ

*Phalanta phalantha phalantha* DRURY

石垣島:	石垣市	7♂♂	16.	VI.	73
------	-----	-----	-----	-----	----

## 3. ヤエヤマイチモンジ

*Athyma selenophora ishiana* FRUHSTORFER

西表島:	大原	1♂	13.	VIII.	70	
	稲葉	6♂♂	1♀	7.	VIII.	70
	祖納	1♂	18.	VIII.	74	
	カンピラ	2♀♀	20.	VIII.	74	
石垣市:	川良山	1♂	13.	VIII.	70	
	川良山	1♀	9.	VIII.	70	

## 4. リュウキュウミスジ

*Neptis hylas luculenta* FRUHSTORFER

西表島:	祖納	2♂♂	2♀♀	6.	VIII.	70
	大原	2♂♂		13.	VIII.	70
	稲葉	3♂♂	2♀♀	7.	VIII.	70
	古見	3♂♂	1♀	11.	VI.	73
	古見	3♂♂		12.	VI.	73
	白浜	1♂	2♀♀	18.	VIII.	74
	祖納	1♂		19.	VIII.	74
	星立	2♂♂		21.	VIII.	74
	祖納	1♂	1♀	22.	VIII.	74
	大原	1♀		25.	VIII.	74

	古見	3♀♀	26.	VIII.	74	
	大富	3♂♂	1♀	27.	VIII.	74
石垣島:	川良山	1♂	9.	VIII.	70	
	富野	1♂	12.	VIII.	70	
	川良山	1♂	13.	VIII.	70	
	米原	1♀	16.	VI.	73	
	白保	1♂	24.	VIII.	74	
	〃	3♂♂	1♀	25.	VIII.	74

5. ルリタテハ *Kaniska canace ishima* FRUHSTORFER

西表島:	大原	2♂♂	2♀♀	13.	VIII.	70
	稲葉	1♂		7.	VIII.	70
石垣島:	川良山	1♂		13.	VIII.	70

6. ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* LINNAEUS

西表島:	星立	1♂	19.	VIII.	74
石垣島:	川良山	1♂	14.	VI.	73
竹富島:	仲筋	1♂	10.	VIII.	70

7. アオタテハモドキ *Precis orithya* LINNAEUS

西表島:	祖納	1♂	6.	VIII.	70	
	大原	2♂♂		13.	VIII.	70
	稲葉	1♂		7.	VIII.	70
	古見	5♂♂	2♀♀	26.	VIII.	74
石垣島:	川良山	1♂	9.	VIII.	70	
	川平	3♂♂	1♀	12.	VIII.	70
	川良山	1♀	13.	VIII.	70	
	白保	2♂♂	4♀♀	25.	VIII.	74
	〃	2♂♂	4♀♀	25.	VIII.	74

8. タテハモドキ *Precis almana* LINNAEUS

西表島:	祖納	4♂♂	2♀♀	6.	VIII.	70
	稲葉	3♂♂	1♀	7.	VIII.	70
	星立	2♂♂	2♀♀	8.	VIII.	70
	大原	3♂♂	3♀♀	13.	VIII.	70
	大富	1♂		10.	VI.	73
	古見	2♂♂	1♀	11.	VI.	73
	白浜	1♂		18.	VIII.	74
	稲葉	1♂	1♀	19.	VIII.	74
	星立	2♂♂		21.	VIII.	74
	祖納	5♂♂	4♀♀	22.	VIII.	74
	大原	2♂♂	4♀♀	25.	VIII.	74
	大富	13♂♂	9♀♀	27.	VIII.	74
石垣島:	富野	2♂♂		12.	VIII.	70
	川良山	2♂♂		13.	VIII.	70
	米原	3♂♂	3♀♀	16.	VI.	73

オモト 1♂ 16. VI. 73  
石垣市 1♀ 17. VIII. 74

9. イシガケチヨウ *Cyrestis thyodamas mabella*

FRUHSTORFER

西表島： 祖納 2♂♂1♀ 6. VIII. 70  
大原 3♂♂1♀ 13. VIII. 70  
" 1♂ 11. VI. 73  
古見 1♂ 11. VI. 73  
白浜 1♀ 18. VIII. 74  
カンピラ 1♂1♀ 20. VIII. 74  
星立 2♂♂ 21. VIII. 74  
大原 1♂ 27. VIII. 74  
石垣島： 川良山 4♂♂1♀ 9. VIII. 70  
富野 2♂♂1♀ 12. VIII. 70  
川良山 1♂ 13. VIII. 70  
" 1♂ 14. VI. 73  
オモト 1♂ 15. VI. 73  
米原 1♂ 16. VI. 73

10. メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus* LINNAEUS

西表島： 古見 3♂♂ 11. VI. 73  
大原 2♂♂1♀ 12. VI. 73  
" 1♂ 11. VI. 73  
" 1♂ 25. VIII. 74  
石垣島： 川良山 2♂♂ 9. VIII. 70  
オモト 1♂ 15. VI. 73  
白保 1♀ 24. VIII. 74  
" 1♂ 25. VIII. 74  
竹富島： 仲筋 6♂♂ 10. VIII. 70

11. ヤエヤマムラサキ *Hypolimnas antilope truentus*

FRUHSTORFER

石垣島： 吉原 1♂ 15. VIII. 70  
川良山 1♂ 9. VIII. 70

12. リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* LINNAEUS

石垣島： 石垣市 1♂ 17. VIII. 74  
白保 1♀ 24. VIII. 74

13. コノハチヨウ *Kallima inachud eucera* FRUHSTORFER

西表島： 大原 1♂ 13. VIII. 70  
石垣島： 川良山 1♂ 9. VIII. 70  
川良山 2♂♂ 13. VIII. 70  
米原 1♂ 15. VIII. 70  
川良山 1♂ 16. VI. 73

14. スミナガシ *Dichorragia nesimachus nesiotus*

FRUHSTORFER

西表島： カンピラ 2頭目撃 20. VIII. 74

ジャノメチヨウ科 Satyridae

1. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama madjicosa* BUTLER

西表島： 稲葉 1♂ 7. VIII. 70  
古見 12♂♂1♀ 11. VI. 73  
古見 21♂♂ 3♀♀ 12. VI. 73  
大富 3♂♂1♀ 10. VI. 73  
祖納 3♂♂1♀ 18. XII. 74  
稲葉 4♂♂5♀♀ 19. VIII. 74  
カンピラ 3♂♂3♀♀ 20. VIII. 74  
星立 2♂♂1♀ 21. VIII. 74  
祖納 2♂♂5♀♀ 22. VIII. 74  
星立 2♂♂1♀ 23. VIII. 74  
石垣島： 川良山 2♂♂ 14. VI. 73

2. ヤエヤマウラナミジャノメ *Ypthima yayeyamana* NIRE

西表島： 祖納 1♂ 18. VIII. 74  
稲葉 1♂ 21. VIII. 74  
祖納 3♂♂2♀♀ 22. VIII. 74  
星立 1♂ 23. VIII. 74  
古見 12♂♂ 6♀♀ 26. VIII. 74  
大富 1♂ 27. VIII. 74

3. マサキウラナミジャノメ *Ypthima masakii* ITO

西表島： 稲葉 2♂♂ 7. VIII. 70  
古見 2♂♂3♀ 11. VI. 73  
古見 9♂♂ 12. VI. 73  
大富 2♂♂2♀♀ 10. VI. 73  
白浜 1♀ 18. VIII. 74  
星立 3♂♂ 19. VIII. 74  
カンピラ 1♂ 20. VIII. 74  
稲葉 3♂♂ 21. VIII. 74  
祖納 1♂ 1♀ 22. VIII. 74  
古見 6♂♂ 4♀♀ 26. VIII. 74  
大富 1♂ 27. VIII. 74

石垣島： 川良山 2♂♂ 13. VIII. 70  
オモト 1♂1♀ 15. VI. 73

4. シロオビヒカゲ *Lethe europa pavida* FRUHSTORFER

西表島： 古見 8♂♂3♀♀ 11. VI. 73  
" 7♂♂ 1♀ 12. VI. 73  
祖納 1♀ 23. VIII. 74

5. ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* LINNAEUS
- |      |    |        |              |
|------|----|--------|--------------|
| 西表島： | 大原 | 1♂     | 11. VI. 73   |
|      | 〃  | 2♂♂    | 13. VI. 73   |
|      | 祖納 | 4♂♂3♀♀ | 18. VIII. 74 |
|      | 星立 | 1♂     | 21. VIII. 74 |
|      | 祖納 | 3♂♂1♀  | 23. VIII. 74 |
| 石垣島： | 吉原 | 1♂ 1♀  | 15. VIII. 70 |



オオゴマダラの多い西表島星立付近と野ヤシの群落



ツマベニチョウのとぶ西表島星立付近



西表島：稲葉付近

Chek list butterflies collected by the author.

種名	西表島	石垣島	竹富島
<b>セセリチョウ科 Hesperidae</b>			
1. オキナワヒロウドセセリ	○		
2. タイワンアオバセセリ	○		○
3. アオバセセリ	○		
4. コウトウシロシタセセリ	○	○	
5. クロセセリ	○		
6. オオシロモンセセリ	○	○	
7. ユウレイセセリ	○	○	
8. チャバネセセリ	○	○	○
9. トガリチャバネセセリ	○	○	○
10. イチモンジセセリ	○	○	
11. ヒメイチモンジセセリ	○	○	○
12. ネットタイアカセセリ	○	○	
13. クロボシセセリ		○	
<b>アゲハチョウ科 Papilionidae</b>			
1. アオスジアゲハ	○	○	○
2. ミカドアゲハ	○	○	
3. ベニモンアゲハ	○	○	
4. ジャコウアゲハ	○	○	○
5. アゲハチョウ	○		
6. シロオビアゲハ	○	○	○
7. クロアゲハ	○	○	
8. カラスアゲハ	○	○	
<b>シロチョウ科 Pieridae</b>			
1. キチョウ	○	○	
2. タイワンキチョウ	○	○	
3. ツマベニチョウ	○	○	○
4. ナミエシロチョウ	○	○	○
5. ウラナミシロチョウ	○	○	○
6. ギンモンウスキチョウ	○	○	
7. ムモンウスキチョウ	○		
8. モンキチョウ		○	

種名	西表島	石垣島	竹富島
<b>マダラチョウ科 Danaidae</b>			
1. カバマダラ	○	○	
2. スジグロカバマダラ	○	○	○
3. リュウキュウアサギマダラ	○	○	
4. ウスコモンアサギマダラ	○		
5. オオゴマダラ	○	○	
<b>ウラギンシジミ科 Curetidae</b>			
1. ウラギンシジミ	○		
<b>シジミチョウ科 Lycaenidae</b>			
1. ムラサキシジミ	○		
2. ウラナミシジミ	○		○
3. オジロシジミ	○	○	
4. ヒメウラナミシジミ	○	○	
5. ルリウラナミシジミ	○		
6. アマミウラナミシジミ	○	○	
7. ヤマトシジミ	○	○	○
8. リュウキュウウラボシシジミ	○		
9. タイワンルリシジミ	○	○	
10. タイワンクロボシシジミ	○	○	
<b>タテハチョウ科 Nymphalidae</b>			
1. ツماغロヒョウモン		○	
2. ウラベニヒョウモンモドキ		○	
3. ヤエヤマイチモンジ	○	○	
4. リュウキュウミスジ	○	○	
5. ルリタテハ	○	○	
6. ヒメアカタテハ	○	○	○
7. アオタテハモドキ	○	○	
8. タテハモドキ	○	○	
9. イシガケチョウ	○	○	
10. メスアカムラサキ	○	○	○
11. ヤエヤマムラサキ		○	
12. リュウキュウムラサキ		○	
13. コノハチョウ	○	○	
14. スミナガシ	○		
<b>ジャノメチョウ科 Satyridae</b>			
1. ヒメジャノメ	○	○	
2. ヤエヤマウラナミジャノメ	○		
3. マサキウラナミジャノメ	○	○	
4. シロオビヒカゲ	○		
5. ウスイロコノマチョウ	○	○	

V. 参考文献

(1) 中村一郎・久保快哉：八重山の蝶類(I)、蝶と蛾  
Vol. X III, No.1, 1962

(2) 中村一郎・久保快哉：八重山の蝶類(II)、蝶と蛾  
Vol. X III, No.3, 1962

(3) 高木寿夫・川崎昭典：クロボシセセリを石垣島で採集、蝶と蛾、Vol. XXVI .No.2,1975

(4) 浜 祥明・原田和政：沖縄産鱗翅類についての観察記録(II)蝶と蛾、Vol. XXV, No.3, 1974

(5) 長嶺邦雄：石垣島で採集した蝶類数種について蝶と蛾、Vol. XXI, No.3&4, 1970

(6) 村山修一：八重山産蝶類数種について、蝶と蛾、Vol. X XI. No.3&4, 1970

(7) 内藤孝道・今村哲夫：1974年におけるギンモンウスキチョウとムモンウスキチョウの野外観察と飼育、蝶と蛾、Vol.27.No.3.1976

(8) 岡内駿介：琉球産蝶類数種について、蝶と蛾、Vol. X IX. No.1&2, 1968

(9) 高橋 昭：西表島におけるスジグロカバマダラの食草と産卵行動、蝶と蛾、Vol.28, No.2, 1977

(10) 多田 豊：八重山群島蝶類調査報告、月刊むし、No.28. 1973

(11) 山田恵一：8月の西表島を行く、月刊むし、Vol. 37. 1974

(12) 長嶺邦雄：西表島、石垣島の蝶、月刊むし、Vol. 24. 1974

(13) 浅田 草：西表島でウスコモンアサギマダラを採集、月刊むし、Vol. 135. 1974

(14) 長嶺邦雄：琉球八重山群島の蝶(I)、蝶と蛾、Vol. X III. No.2, 1962

(15) 堀 透：西表島でヒメコモンアサギマダラを採集、月刊むし、Vol. 102, 1979

(16) 清 邦彦：沖縄先島諸島のモンシロチョウ、昆虫と自然、Vol.5. No.12, 1970

(17) 加藤智禧：西表島蝶採集記、昆虫と自然、Vol. 10. No.6, 1975

(18) 多田 豊：西表島3月上旬の蝶、昆虫と自然、Vol. 5, No.7, 1970

(19) 多田 豊：八重山冬期の蝶類、昆虫と自然、Vol. 9, No.3, 1974

(20) 中谷貴寿・松本弘志：八重山群島5月の蝶、SATUMA, No.71, 1976

(21) 西山保典：古見部落シロオビヒカゲの決闘、月刊むし、Vol. 14, 1972

(22) 藤岡知夫：日本産蝶類大図鑑、講談社、1975

(23) 白水 隆：原色台湾蝶類大図鑑、保育社、1960

IWAO IWAMURA 〒671-14 姫路市

# 八重山の蝶類採集記録 (1980)

佐々木 薫

## I、はじめに

昭和47年に沖縄の本土復帰が実現され、我々蝶屋も外国に行かなくても亜熱帯の蝶採集が楽しめる様になった。我が播磨蝶友会でも沖縄での採集を1日も早く実現したく交通公社に申し込んで来たが飛行機の予約が取れず(昭和51年より54年迄の間)なかばあきらめていたのであるが、やっと友人の弟さんの御厚意で昭和55年の春、長い間の念願がかなえられる日がやって来た。

会社の都合等で採集行出来る様になったのは八木弘氏と小生の2名だけになった。今回の採集行は蝶の採集期としては非常に良い時期でかなりの成果があったので報告する。

## II、日 程

### ▲ 4月28日

大阪空港発 10:00

沖縄空港着 12:05

(沖縄で4時間程飛行機の待時間が出来たのでタクシーで南部の観光が一部出来た。)

沖縄空港発 16:05

石垣空港着 17:05

石垣空港よりタクシーにて石垣港にある宮平観光ホテルへ行く。この日は石垣島に泊ったが、蝶の採集をする時間はなかった。

### ▲ 4月29日

石垣港発 8:40 高速艇“ひるぎ”にて大原港へ

西表島着 9:40

大原港からは西表島での宿泊先竹盛旅館のマイクロバスにて大富にある旅館へ。旅館で昼の弁当を作って貰い午前10時40分より西表島での採集を行う。幸いレンタカーを借りる事が出来たので、西表島での全採集に利用出来て行動範囲が非常に広がった。たゞこの車はやっと動く程度のオンボロ車だったが、この島には信号機も交通ルールもなく、パトカーや白バイに追われる事もないといった蝶採集者には全ったくの天国で、好きな所に車を止めてネットを振ることが出来て、西表島での3日間の採集を本当に楽しくしてくれた。

### ▲ 4月29日 晴、採集時間10:40~16:30

大富、大富~古見、古見、大原、豊原、にて採集を行う。

### ▲ 4月30日 小雨、採集時間8:40~16:00

大富、古見、豊原、にて終日採集を行う。

### ▲ 5月1日 雨後曇り、採集時間9:00~16:00

大富、豊原、にて終日採集を行う。

### ▲ 5月2日 午前中は降ったり止んだり、午後は晴、採集時間6:30~16:00

大富、浦内川船着場付近、カンピラー滝船着場よりカンピラー滝まで、白浜、祖納、干立、にて終日採集を行う。

### ▲ 5月3日 午前中は降ったり止んだり、午後は晴、

今日は午前8時40分発のホーバークラフトで西表島を離れ、次の採集地石垣島へ向うため、西表島での最後の採集を豊原にて午前6時40分より8時10分まで行った。石垣島へは9時20分に着き、すぐ石垣での宿泊先に指定している宮平観光ホテルへ入り、レンタカーの手続きを終え、於茂登へ着いたのは正午だった。石垣島での天気は非常に良く、16時20分まで於茂登で採集を行った。

### ▲ 5月4日 晴、採集時間8:20~16:20

川平、バナナ岳、嵩田、於茂登、にて終日採集を行う。

### ▲ 5月5日 晴、採集時間8:00~10:00

石垣島最後の採集を川平にて行い12時20分発の飛行機で沖縄へ向った。沖縄着13時20分、石垣空港は快晴であったが、沖縄空港はドシャ降りです、すぐタクシーにてホテルへ。

### ▲ 5月6日 雨後曇り

午前中は沖縄南部の観光をタクシーで回り、午前11時55分沖縄発の飛行機で大阪へ向った。大阪空港着13時40分に着く。



写真1. 西表島豊原の好採集地。カワカミシロチョウ、タイワンキチョウ、メスアカムラサキ、イシガケチョウ、タテハモドキ、オオシロモンセセリ、ネットアイアカセセリ、クロセセリ、スジグロカバマダラ、リュウキュウアサギマダラ、タイワンクロボシジミ、マサキウラナミジャノメ、等のポイント。



写真2. 西表島大富のポイント。  
水牛の後方がマサキウラナミジャノメ、シロオビヒカゲ、ヒメジャノメ、ウスイロコノマ、タイワンアオバセセリ、スジグロカバマダラ、タイワンクロボシジミ等。

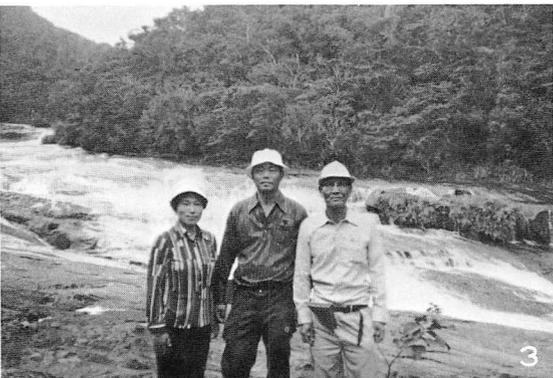


写真3. 今回の採集行に同行した3名の写真。  
左より小生の家内、中央が小生、右が八木弘氏。カンピラーの滝にて、55年5月2日。



写真4. 於茂登登山口の入口で車の置いてある後方がヤエヤマイチモンジ、イシガケチョウ、ルリタテハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、オキナワビロウドセセリ、ナミエシロチョウ、タイワンクロボシジミ、スジグロカバマダラ、リュウキュウアサギマダラ等のポイント。



写真5. 石垣島川平のポイントでオオゴマダラ、リュウキュウアサギマダラ、シロオビアゲハ、ジャコウアゲハ、カラスアゲハ、ベニモンアゲハ、イシガケチョウ、タテハモドキ、リュウキュウコムシジ、アオタテハモドキ、ナミエシロチョウ、アマミウラナミシジミ、タイワンクロボシジミ、ネットアイアカセセリ、ツマベニチョウ等が採集出来た。



写真6. 西表島豊原のポイント

クロセリ、オオシロモンセリ、ウスイロコノマ  
 チョウ、ヒメジャノメ、イシガケチョウ、タイワンク  
 ロボシジミ、アマミウラナミシジミ、ヤマトシジミ  
 等で特にクロセリが沢山いた。

## III. 各種採集記録

## セリチョウ科 HesperIIDae

1. オキナワヒロウドセリ *Hasora chromus*

西表島 石垣島

大富 IV-29 1 ex 於茂登 V-3 1 ex

" IV-30 1 ex

カンピラー V-2 1 ex

各地でかなり目撃出来たが鮮度はあまり良くない。

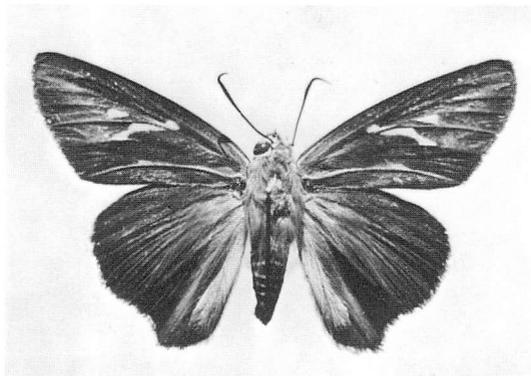
2. タイワンアオバセリ *Badamia exciamationis*

西表島

豊原 IV-29 1 ex

大富 V-1 1 ex

採集した個体は2頭とも♀で鮮度は良かった。個体数  
 としては上記以外では大富で2頭目撃したが採集で  
 きなかった。他の採集地では全ったく見なかった。

3. ネットタイアカセリ *Teiicota colon*

西表島 石垣島

豊原 IV-29 1 ex 川平 V-4 1 ex

大富 IV-30 2 exs

" V-1 2 exs

豊原 V-1 2 exs

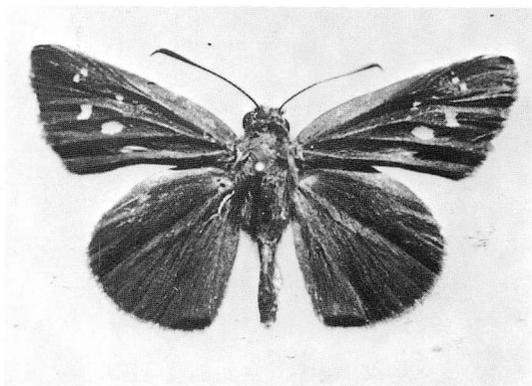
採集した個体の鮮度は美しく羽化直後の様だった。  
 特に大富で数多く目撃した。

4. クロボシセリ *Suastus gvemius*

石垣島

川平 V-5 1 ex

個体の鮮度は良かったが目撃出来たのはこの1頭だ  
 けだった。

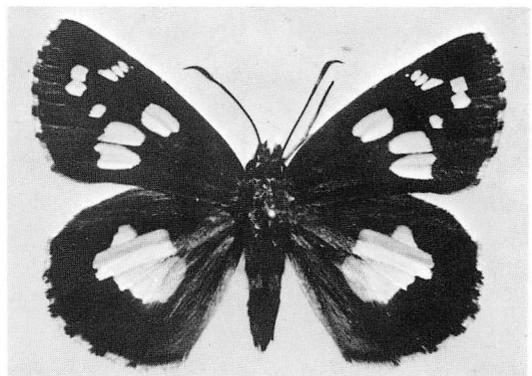
5. オオシロモンセリ *Vaaspesfolus*

西表島 石垣島

豊原 V-1 5 exs バンナ岳 V-4 2 exs

" V-3 1 ex

採集した個体の鮮度は美しく、豊原ではかなり目撃  
 出来た。石垣島の川平でも目撃した。



6. クロセセリ *Notocrypta curuifascia*

西表島

古見 IV-30 1 ex  
 豊原 IV-30 7 exs  
 大富 V-1 1 ex  
 豊原 V-1 10ex  
 " V-3 1 ex

採集した個体の鮮度は美しく羽化直後の様だった。  
 豊原では特に数多くの個体を目撃出来た。

7. トガリチャバネセセリ *Pelopidas agna*

西表島

石垣島

大富 IV-30 2 exs 於茂登 V-3 1 ex  
 豊原 V-1 1 ex

鮮度もや、悪く個体数も少なかった。

8. ユウレイセセリ *Borbo cinnara*

西表島

大富 IV-30 1 ex  
 豊原 IV-30 1 ex  
 " V-1 1 ex  
 カンピラー V-2 1 ex  
 千立 V-2 2 exs  
 豊原 V-3 1 ex

鮮度も良く個体数も西表島では少なくなかった。

9. ヒメイチモンジセセリ *Parnara naso*

石垣島

於茂登 V-3 1 ex

採集した個体の鮮度は良かったが他には目撃出来な  
 かった。

アゲハチョウ科 *Papilionidae*

10. ジャコウアゲハ *Byasaalcinous*

西表島

石垣島

豊原 IV-29 3 exs 於茂登 V-3 3 exs  
 " IV-30 1 ex 川平 V-4 5 exs  
 嵩田 V-4 1 ex  
 川平 V-5 2 exs

採集した個体の鮮度は色々で、個体は各地で目撃出  
 来たが、特に石垣島の川平に多かった。

11. ベニモンアゲハ *Pachlioptaaristolochiae*

石垣島

川平 V-4 1 ex  
 於茂登 V-4 1 ex

西表島でも採集したが、破損がひどく逃してやった。  
 採集した個体も鮮度は悪かった。個体数も少なく目  
 撃出来たのは全部で5~6頭でした。

12. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

西表島

石垣島

大富~古見 IV-29 2exs 於茂登 V-3 2exs  
 古見 IV-29 1ex " V-4 1ex  
 大富 V-1 1ex  
 千立 V-2 1ex

採集した個体の鮮度は良く個体数はあまり多くは目  
 撃出来なかったが各地でみられた。

13. ミカドアゲハ *Grappium doson*

西表島

浦内川船着場 V-2 1 ex

今回の採集行で小生が本種を目撃したのはカンピラ  
 ーの滝へ行く船着場だけでこの日は午前中が雨で時  
 々晴れ間がみえる程度でそのわずかの晴れ間にミカ  
 ドアゲハが約20~30頭も岩場の上に吸水に来ていた  
 採集出来たのは1頭だけであったがどの個体の鮮  
 度もそれは美しかった。

14. シロオビアゲハ *Papilio polytes*

西表島

石垣島

大富 IV-30 4 exs 於茂登 V-3 4 exs  
 古見 IV-30 1 ex 川平 V-4 5 exs  
 祖納 V-2 1 ex バンナ岳 V-4 1 ex  
 千立 V-2 5 exs 川平 V-5 7 exs

採集した個体の♀は良かったが♂の方は中には美し  
 い個体もいたが全般的にはや、悪いといった程度で  
 個体数は多く目撃出来た。

15. クロアゲハ *Papilio protenor*

石垣島

於茂登 V-3 5 exs  
 " V-4 3 exs  
 嵩田 V-4 1 ex

本種は石垣島でのみ目撃し、特に於茂登で沢山の個  
 体をみる事が出来たが、西表島では全ったくみな  
 かった。採集した個体の鮮度は良かった。

16. カラスアゲハ *Papilio bianor*

西表島

石垣島

大富 IV-29 1 ex 於茂登 V-3 3 exs  
 大富~古見 IV-29 2exs " V-4 1 ex



25. ナミエシロチョウ *Appias paulina*  
 西表島 石垣島  
 大富～古見 IV-29 4exs 於茂登 V-3 3 exs  
 古見 IV-29 1 ex 嵩田 V-4 2 exs  
 川平 V-4 1 ex  
 " V-5 6 exs  
 採集した個体は♂♀ともに鮮度は非常に良く、個体数は石垣島の川平が一番多く感じた。

シジミチョウ科 *Lycaenidae*

26. ウラナミシジミ *Lampides boeticus*  
 西表島  
 豊原 IV-30 2 exs  
 採集した個体の鮮度はあまり良くなかった。他の採集地では気がつかなかった。
27. オジロシジミ *Euchrysops cnejus*  
 西表島  
 豊原 IV-30 1 ex  
 今回の採集行で目撃出来たのはこの1頭だけで、他にはまったく目撃することが出来なかった。採集した個体はや、あせていた。

28. アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava*  
 西表島 石垣島  
 豊原 IV-29 1 ex 川平 V-4 1 ex  
 " IV-30 6 exs 於茂登 V-4 3 exs  
 " V-1 1 ex 川平 V-5 5 exs  
 カンピラー V-2 1 ex  
 干立 V-2 1 ex  
 本種は各採集地でかなり目撃出来た。採集した個体の鮮度はや、あせた程度であった。

29. ヒメウラナミシジミ *Prosotas nora*  
 西表島  
 大富 V-1 3 exs  
 豊原 V-1 4 exs  
 採集したのは7頭だけだが、各採集地でかなりの個体数を目撃することが出来た。鮮度はや、あせていた。

30. ヤマトシジミ *Zizeeria mana*  
 西表島 石垣島  
 大富 IV-29 2 exs 於茂登 V-3 1 ex  
 豊原 IV-29 1 ex " V-4 1 ex  
 " IV-30 6 exs 川平 V-4 1 ex  
 " V-1 10exs  
 祖納 V-2 1 ex  
 干立 V-2 4 exs

本種は各採集地で普通にみられ個体数も少なくない。27頭も採ったのは中にハマヤマトが混じっていないかと思って採ってみたが全部ヤマトシジミであった。鮮度は良かった。

31. ヤクシマルリシジミ *Celastrina puspa*  
 西表島  
 干立 V-2 1 ex  
 本種はこの1♀だけで他にはまったく採集出来なかった。鮮度はかなりあせていた。

32. タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya*  
 西表島 石垣島  
 大富 IV-29 1 ex 於茂登 V-3 7 exs  
 豊原 IV-29 4 exs " V-4 1 ex  
 大原 IV-29 1 ex 川平 V-5 1 ex  
 大富 IV-30 1 ex  
 豊原 IV-30 2 exs  
 " V-1 3 exs  
 " V-3 1 ex  
 本種は各採集地で普通にみられ個体数も多かった。採集した個体の鮮度は大半が良かった。

33. ウラギンシジミ *Curetis acuta*  
 西表島  
 豊原 IV-29 1 ex  
 大富 V-1 1 ex  
 採集したのは1♂1♀だけだが大富では相当数の個体を目撃した。鮮度はや、あせていた。

マダラチョウ科 *Danaidae*

34. アサギマダラ *Parantica sita*  
 西表島  
 豊原 V-1 1 ex  
 西表島、石垣島を通じて目撃出来たのはこの1頭だけであった。鮮度は良好。

35. リュウキュウアサギマダラ <i>Radena similis</i>	
西表島	石垣島
大富 IV-29 2 exs	於茂登 V-3 4 exs
大富~古見 IV-29 2exs	川平 V-4 9 exs
豊原 IV-29 1 ex	バナナ岳 V-4 1 ex
古見 IV-29 1 ex	嵩田 V-4 1 ex
大富 IV-30 1 ex	川平 V-5 5 exs
豊原 IV-30 1 ex	
大富 V-1 2 exs	
豊原 V-1 1 ex	
千立 V-2 1 ex	

本種は各採集地で普通に目撃出来、個体数も少ない。鮮度はや、あせていた。

36. スジグロカバマダラ <i>Salatura genutia</i>	
西表島	石垣島
大富 IV-29 5 exs	於茂登 V-3 12exs
大富~古見 IV-29 3exs	" V-4 2 exs
豊原 IV-29 1 ex	川平 V-5 3 exs
古見 IV-29 1 ex	
大富 IV-30 11exs	
古見 IV-30 2 exs	
豊原 IV-30 6 exs	
大富 V-1 4 exs	
豊原 V-1 19exs	
祖納 V-2 1 ex	
豊原 V-3 1 ex	

今回の採集行で本種とイシガケチョウは最も多く、各採集地とも非常に沢山の個体を目撃出来た。鮮度も良好で発生期のピークの様に思われた。

37. カバマダラ <i>Panlymnas chrysippus</i>	
西表島	石垣島
大富 IV-29 2 exs	川平 V-5 3 exs
" V-1 1 ex	
千立 V-2 8 exs	

本種は目撃すれば採集は容易であるが、上記以外の採集地では目撃出来ず、鮮度もあまり良くはなかった。

38. オオゴマダラ <i>Idea leuconoe</i>	
西表島	石垣島
大富 IV-29 1 ex	川平 V-4 2exs
大富~古見 IV-29 1ex	" V-5 2exs
豊原 IV-29 3exs	
大原 IV-29 1ex	
大富 IV-30 1ex	

古見 IV-30 1ex
大富 V-2 1ex

各採集地とも目撃は出来たが、個体数はあまり多くない様だった。鮮度は美しいものから、ボロボロのものまで色々の個体を目撃した。

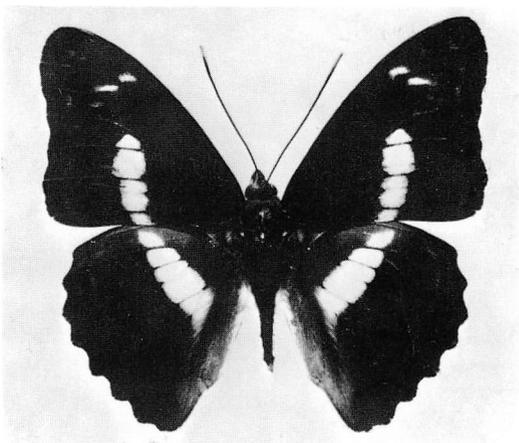
#### タテハチョウ科 *Nymphalidae*

39. ツマグロヒョウモン <i>Argyreus hyperbius</i>	
西表島	石垣島
大富 IV-29 1ex	於茂登 V-3 1ex
豊原 IV-29 2exs	
古見 IV-29 1ex	
豊原 IV-30 1ex	

個体数は多くないが各地で目撃出来た。鮮度は良くなかった。

40. ヤエヤマイトモンジ <i>Athyma selenophora</i>	
	石垣島
於茂登 V-3 2exs	
" V-4 2exs	
バナナ岳 V-4 3exs	

西表島では全たく目撃出来なかったが、石垣島の於茂登ではかなりの個体数を目撃出来た。鮮度は♀とも非常に美しかった。

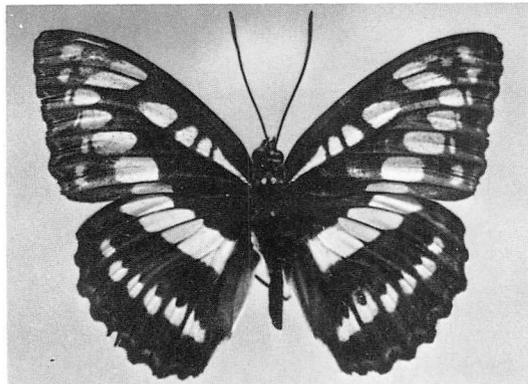


41. シロミスジ *Athyma perius*

西表島

大富 IV-30 1ex

本種は与那国島ではかなり採集されている様だが、西表島で採集されるのは珍しく、しかも今回採集した♂は小生の家内がわからずに採ったもので全ったく好運としかい、様のないものでした。鮮度はやゝあせていたが完全な個体だった。



42. リュウキュウミスジ *Neptis hylas*

西表島

石垣島

大富 IV-29 2exs 川平 V-4 3exs

大富~古見 IV-29 1ex // V-5 1ex

大原 IV-29 1ex

大富 IV-30 3exs

古見 IV-30 5exs

各採集地で普通に目撃出来た。鮮度も良い。

43. ルリタテハ *Kaniska canace*

石垣島

於茂登 V-3 3exs

嵩田 V-4 1ex

西表島では全ったく目撃出来なかったが、石垣島の於茂登では6~7頭程目撃出来た。鮮度は良好であった。

44. アカタテハ *Vanessa indica*

西表島

石垣島

祖納 V-2 1ex 川平 V-4 1ex

本種の鮮度はやゝ、良好といったところで、個体数は多くない。

45. タテハモドキ *Precis almana*

西表島

石垣島

大富 IV-29 6exs 川平 V-4 4exs

大富~古見 IV-29 1ex // V-5 3exs

豊原 IV-29 3exs

大原 IV-29 1ex

古見 IV-29 4exs

大富 IV-30 2exs

古見 IV-30 3exs

豊原 IV-30 2exs

// V-1 1ex

白浜 V-2 6exs

千立 V-2 1ex

豊原 V-3 2exs

各採集地で普通に目撃出来た。鮮度は非常に美しい個体から、ボロボロまで色々なものがいた。採集した個体は全部夏型であった。

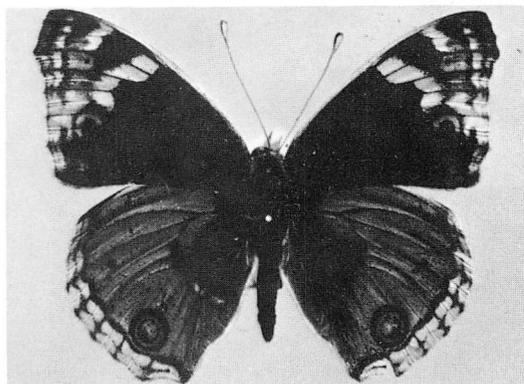
46. アオタテハモドキ *Precis orithya*

石垣島

川平 V-4 3exs

// V-5 1ex

本種は西表島、石垣島を通して川平で5♂を目撃し4♂を採集しただけで、他の採集地では全ったく目撃することが出来なかった。採集した個体の1頭は羽化直後で他の3頭は鮮度がやゝあせていた。



47. メスアカムラサキ *Hypolimnys misippus*

西表島

豊原 IV-29 1ex

// IV-30 1ex

// V-1 1ex

本種は西表島の豊原で目撃採集しただけで他の採集地では全ったく目撃すら出来なかった。採れたのは全部♂で鮮度は3頭とも美しかった。

48. イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>
西表島	石垣島
大富 IV-29 4exs	於茂登 V-3 13exs
豊原 IV-29 2exs	〃 V-4 1ex
古見 IV-29 1ex	川平 V-4 2exs
大富 IV-30 2exs	〃 V-5 1ex
古見 IV-30 1ex	
豊原 IV-30 2exs	
大富 V-1 2exs	
豊原 V-1 4exs	
大富 V-2 1ex	
千立 V-2 2exs	

今回の採集行で一番個体数が多く感じた種類で、各採集地とも本当に沢山目撃出来た。鮮度もボロボロから非常に美しい羽化直後といった個体まで色々あった。

ジャノメチョウ科 Satyridae

49. ヤエヤマウラナミジャノメ	<i>Ypthima yayeyama</i>
西表島	石垣島
カンピラー V-2 2exs	バナナ岳 V-4 1ex
本種は西表島のカンピラー滝近くでと、石垣島のバナナ岳で採れただけで、他の採集地では採集出来なかった。鮮度は3頭とも美しかった。	
50. マサキウラナミジャノメ	<i>Ypthima masakii</i>
西表島	石垣島
大富 IV-30 5exs	バナナ岳 V-4 1ex
〃 V-1 10exs	
豊原 V-1 1ex	
大富 V-2 3exs	
カンピラー V-2 3exs	

前種に比べ本種はやゝ局地的ではあるが、個体数は多く目撃出来た。特に大富では沢山の個体をみる事が出来た。鮮度は良好である。

51. シロオビヒカゲ	<i>Lethe europa</i>
西表島	石垣島
大富 V-1 2exs	於茂登 V-3 2exs
祖納 V-2 1ex	
千立 V-2 1ex	

本種は採集した個体は千立を除いて、全部♀で鮮度も良かった。於茂登では相当数目撃出来たが、場所的にネットを使いにくいため逃がす方が多かった。

52. ヒメジャノメ	<i>Mycalasis gotama</i>
西表島	石垣島
豊原 IV-29 1ex	嵩田 V-4 1ex
大富 IV-30 1ex	
古見 IV-30 3exs	
豊原 IV-30 3exs	
大富 V-1 1ex	
豊原 V-1 7exs	
大富 V-2 3exs	
白浜 V-2 2exs	
豊原 V-3 3exs	

本種は各採集地とも普通に見られ、個体数もかなり多くいた。鮮度は非常に美しく、発生期のピークの様だった。

53. ウスイロコノマチョウ	<i>Melanitis leda</i>
西表島	

大富 V-1 2exs
豊原 V-1 2exs

採集した個体の鮮度は羽化直後の個体から、かなり傷んだ個体まで色々であった。豊原では採集した他に2頭程目撃したが、採集出来なかった。又他の採集地では全たく目撃出来なかった。

以上今回の採集行では7科53種586頭を採集することが出来た。しかもその大半が新鮮であり、初めての八重山採集行としてこの時期を選んだことを本当によかったと思います。最後にこの採集記を読まれる方で、今後八重山方面に蝶の採集に行かれる方に、少しでもお役に立つことを願って、報告を終わりたいと思います。

(KAORU SASAKI) 〒678 兵庫県相生市

# 石垣島晩秋の採集記

入江 照夫

## I). はじめに

蝶に魅せられてから7年、グループの中での一番の若輩であるが、勤務先での勤続は30年になる。30年勤続の特典に2泊3日の同伴旅行がある。飛行機に乗った事のない妻のためと、南西諸島の蝶の姿を見たくて、沖縄と石垣島へと計画をめぐらした。沖縄本島は1昨年、出張で出かけた時予定が早く終了したので3日間沖縄南部→本部半島→与那覇岳と5月初旬に歩いた事があるが、石垣島は初めてである。

残念なのは指定される期間が11月より3月中旬である。しかし敢えて晩秋の石垣島の蝶相も見たく、11月5日より1週間、沖縄→石垣島→沖縄を計画した。

## II). 出発→沖縄南部

出発の5日前より風邪で寝込んでいた妻が前日になり、ようやく歩ける様になった。

11月5日の早朝は10度と大変肌寒く、下着を少なめにしたため、機内に入るまでガタガタふるえていた。沖縄は快晴で28度と大変暑く、夏物のスーツが汗ばみ肌にベタつく下着が真夏を思わす。

沖縄本島は大変な水不足で、トイレはドラム缶の水を手杓、食堂、喫茶店での水のお代りはダメ、食器は使い捨て容器、と節水につとめる状態である。

バスで6時間コースの南部戦跡めぐりをしたが、午後の6時間沖縄南部は、なんと蝶が少ないのかと驚く。目撃した蝶は、キチョウ、モンシロチョウ、テングチョウ、アカタテハ、ルリタテハ、ヤマトシジミ、の6種だけで、やはり内地同様に晩秋だなと感じると共に明日からの石垣島での採集もあまり期待出来ないなと妻と話し、観光を主体にせねばと半ばあきらめた。

## III). 第二日 石垣島 於茂登

朝の便で石垣へ飛んだ。

眼下の珊瑚礁が美しい。“石垣は晴 29度”のアナウンス。思いは速くも川平へ、於茂登へとかけめぐる。空港からホテルへ急ぎ、風邪の妻をホテルに残して、急ぎ車で於茂登へと向かう。途中空港近くでイヌビユを見つけたので調べたがハマヤマトシジミはいなくてヤマトシジミばかりであった。

しかし、近くの亀甲墓のそばで、メスアカムラサキ、

ウスイロコノマチョウ、ウラベニヒョウモン等が採れ幸先よいスタートである。

砂糖キビ畑の中を走ること20分、於茂登岳の登山口へとついた。冷房の車から出ると大変暑く、雲が多いが日ざしは強く、汗を拭きながら歩いているとハブの死骸に出会う。一瞬たじろんだが、ハブの恐怖よりも蝶への想いが強く山道に歩を速める。

約20分、NHKのアンテナ工事中の於茂登岳中腹、名蔵湾が見渡せる三叉路まで来た頃より風が強く、ツマベニチョウ、カラスアゲハ、クロアゲハ等の大型の蝶が飛ぶと言うよりも、風に流される様に眼の前を次々と横切って行く。

名蔵湾の方へと山道を下る道筋、沖縄で感じた危惧は嘘のように蝶が多い。

貝殻色をあたり一面に振りまくルリウラナミシジミ、テリトリーを守るために追尾を繰り返しては又元の場所へと戻るコウトウシロシタセセリ。

交尾をしたまゝ飛翔をするメスアカムラサキ。

求愛に余念なく人の気はいい知らぬメスアカムラサキ、ネットするのが嫌になる程のスジグロカバマダラ、リュウキュウアサギマダラ、等々約3時間、夢中であつたが空の暗さに人恋しく、山を下りる事にする。

帰りのタクシーの中で運転手が石垣市内は1時間ばかり雨であつたと言う。初日は幸運であつた。21種類、約150頭の収穫であつた。

## IV). 第三日 川平(カピラ)

前線による夜来の雨。

冷房こそ入れなかったが、窓を全部開け寝苦しいまゝ眠っていたが、肌寒く目が醒めると雨と風である。網戸越しに雨が枕元まで入って来ている。

夜が明けても雨、風も止まず、採集は断念せざるを得ない。昨日よりも10度低いと言う。ランニングシャツだけでは肌寒い。

せめて観光でもと西表島、竹富島への船便を電話すれば風が治まるまで欠航との事、ついていない。

観光が駄目なら採れなくて元々と、風邪も大部良くなった妻を伴い車で川平湾へと向つた。車窓から見る海は白く波立ち、道路添いの砂糖キビが大きくざわめいている。

川平公園まで来た時、風はあったが雨は小降りに治まった。この分なら大丈夫と車を降りる。

川平湾の美しいこと。ガイドブック以上の水の青さ、砂浜の白さである。しばし自然美の造形に心休まる思いで白浜を歩く。それも一瞬、白い砂の上をアオタテハモドキが風に流されて眼前を翔ぶ、あたりに誰も居ないのを幸と、白い砂浜に靴跡荒々しく蝶を追う。風が強く見失う、残念。

蝶を追って草地、木立ちの中へ。海岸添いの風の当らぬ草地に出た時、アオタテハモドキ、ウラナミシロチョウ、スジグロカバマダラ、メスアカムラサキ等が多く飛ぶ所へと出会う。濡れたネットに次々と入って来る。雨は小降りであるが蝶は多い。

川平湾のヤブ蚊には閉口した。濡れた草地を走る顔に、手に黒々と止まって来る。

スジグロカバマダラを採っていた妻が、顔に蚊を止まらせながら、「これ、珍しいもの？」と指先に出した蝶は何と昨日から探せど目撃すら出来なかったヤエヤマイチモンジで、しかも雌の完品である。「これだから素人はこわい」と蝶仲間の声が聞こえる様だ。

海岸から山手への道を小雨の中に歩き、走る。水牛が1メートルはある角を揺らしながら、こちらを見る、あまり良い気持はしない。その水牛のそばで、アオタテハモドキが2ツ3ツ飛ぶが近づけない。木立ちの上をベニモンアゲハがゆるやかに飛ぶ。

暗い空に鮮紅色をひるがえして行交うツマベニチョウのラブコール。パイン畑は取り入れ前の甘い香り。人気のない山道で三角岳が大分重くなって来る。

川平湾の白砂が見えるパイン畑でアオタテハモドキを追っている時、雨足が激しくなりパインの実が、葉が濡れて来る。全く採集は不能となる。無情の雨だ。木立ちの中へと雨やどり。しばし止みそうで無い。

後髪を引かれる思いで石垣市内へと引きあげる。

帰りは路線バスが丁度来合せ、少し方向違いの市内行きであったが雨の中の島内半周のドライブとなる。せわしく動くワイパーの中だけで見える川平湾の青い海、白い砂が印象的に過ぎ去って行く。

バスの中での30分余り、寒くて仕方が無かった。3時間程の採集であったが20種類、約200頭の収穫。

#### V). 第四日 於茂登岳

前線の停滞でまだ雨が降っている。

ホテルの人の話では、平年より10度程低いそうである。昨日の雨に濡れたせいか身体が熱っぽく、口の周りに熱の華が出来ている。しかし時間が惜しい。

午後5時の便で沖繩へ帰る予定なので、3時までしか

石垣島に居られない。まだ採りたい蝶が残っている。雨の中を今一度、於茂登岳へと車を走らせる。

妻の風邪が完全にこちらに回った様である。頭がふらついて視点が定まらない。先を歩く妻は喜々として慣れぬ手つきで、タイワンキチョウ、リュウキュウヒメジャノメ等を三角岳に入れている。

ネットを振る気のないまま後から歩いているうちに雨が止み、黒い雲間に白さが見えて来た。ツマベニチョウの朱色に採集意欲をかり立てられる。

何処からともなく、コウトウシロシロシタセセリが飛んで来ては追尾を繰り返し、名も知らぬ木の葉に止まるのを採ると、5秒もたたぬ間に全く同じ位置に止まる。採ると又止まる。面白い様に採れる。ゆっくり新鮮な個体を選んで採る事が出来る。

タテハモドキの秋型の新鮮なもの、後翅の赤絨が大きいクロアゲハ、全面真黒なカラスアゲハ、等々々。

昼すぎ風が出て来た。雨も降り出して来た。期待していた、コノハチョウ、ヤエヤマムラサキ、イワカワシジミの姿を見ずに下山するのかと残念至極。

於茂登部落まで下りて来た時、風があまり強いので呼んでおいたタクシーの時間まで、道路より少し離れた林の中へ待機する事にした。林の中の流れのない小川を歩き、ふと前方を見ると何と素晴らしい眺めであろう。薄暗い林の中に、スジグロカバマダラ、リュウキュウアサギマダラ、キチョウ等が何十頭、いや何百頭の蝶が風を避けて、ひしめき合う様に空中に漂っているではないか。あまりの幽玄な光景に声も出ず、ただ恐怖のみを感じて足が動かなかった。

我に返ったのはコノハチョウである。眼の前の木の根元に止まっている。飛んでいるコノハチョウは沖繩で採った事はあるが、止まっているのを見るのは初めてであり、下向きに止まり、しかも特異な木の葉模様は全く驚嘆に値する。外敵から身を守るためのこの様な素晴らしい疑態術をいつ身につけたのであろうか。ネットすると前翅の先端が欠けているが新鮮である。

近くでスミナガシも採った。後翅が半分程欠けているが個体の大きいには、これ又驚きであった。

時の経つのを忘れていた時、車の音がしたので急いで道路へ出たがタクシーはそのまゝ走り去り、於茂登岳の方へと消えてしまう。約束していた場所は、はるか山の上である。待つ時間が気になる。帰りの飛行機は待つて呉れない。近くの農家へ走り、車を出して頂いてタクシーに連絡してもらい、やっとの思いでホテルへの帰路についた。車の中で運転手が、「いくらクラクションを鳴らしても戻って来ないので道に迷ったのかと心配しましたよ。ハブも多いし、冬眠前のハブ

は特に危険ですからね。」と言われた時、ハブが居た事を思い出した。初日にハブの死骸を見ているにもかかわらず、3日間道のない草むらを走り回っていたのである。幸にして無事であったが妻と顔を見合せて苦笑いする事であった。

何はともあれ、3日間の石垣島での採集は終わった。天候には全く恵まれなかったが、それなりの成果はあった。又来る機会を念じつつ石垣空港を後にする。

窓から見る雲海の上の夕陽が赤々と映え、石垣島の旅を一そう印象づけてくれた。

晩秋11月6日から8日までに採集した蝶の種類と、鮮度、個体数を記しておきたい。

鮮度 ◎…新鮮 ○…小破 △…大破  
 個体数 +…稀 ++…普通 +++…多い

種類	鮮度	個体数
<b>アゲハチョウ科</b>		
ベニモンアゲハ	○	++
アオスジアゲハ	○	++
ミカドアゲハ	△	+
ナガサキアゲハ	△	+
クロアゲハ	○	++
シロオビアゲハ	○	++
カラスアゲハ	○	++
<b>シロチョウ科</b>		
ツマベニチョウ	△	++
ナミエシロチョウ	○	+
モンシロチョウ	○	+
台湾キチョウ	◎	++
ウラナミシロチョウ	△	++
キチョウ	○	++
<b>マダラチョウ科・テングチョウ科</b>		
テングチョウ	○	+
アサギマダラ	○	+
リュウキュウアサギマダラ	◎	+++
カバマダラ	◎	+
スジグロカバマダラ	◎	+++
<b>タテハチョウ科</b>		
アカタテハ	◎	+
ルリタテハ	△	+
アオタテハモドキ	◎	+

タテハモドキ	◎	+
メスアカムラサキ	△	+
リュウキュウムラサキ	△	+
コノハチョウ	△	+
ツماغロヒョウモン	○	+
ウラベニヒョウモン	△	+
イシガケチョウ	△	++
スミナガシ	△	+
ヤエヤマイチモンジ	◎	+
リュウキュウミスジ	○	++

<b>シジミチョウ科</b>		
ヤマトシジミ	○	+++
台湾ツバメシジミ	○	+
ヤクシマルリシジミ	○	+
台湾クロボシシジミ	○	+++
ルリウラナミシジミ	◎	+++
ウラナミシジミ	△	++
アマミウラナミシジミ	△	+

<b>ジャノメチョウ科</b>		
ウスイロコノマチョウ	○	++
マサキウラナミジャノメ	○	+
ヤエヤマウラナミジャノメ	○	+
リュウキュウヒメジャノメ	◎	++

<b>セセリチョウ科</b>		
オキナワヒロウドセセリ	△	++
コウトウシロシタセセリ	◎	+++
クロセセリ	◎	+
トガリチャバネセセリ	○	+
ユウレイセセリ	○	+
イチモンジセセリ	△	+
ヒメイチョモンジセセリ	△	+

アゲハチョウ科：7種 シロチョウ科：6種  
 マダラチョウ科：5種 タテハチョウ科：13種  
 ジャノメチョウ科：5種 シジミチョウ科：7種  
 セセリチョウ科：7種  
 合計 50種類

TERUO IRIE 〒678 相生市

# 八重山諸島に蝶を訪ねて

八 木 弘

蝶の楽園といわれる沖縄は、蝶愛好家の一度は訪ねて見たいところである。

蝶採集は、4月下旬から、5月中旬にかけて、亦、9月から10月の台風シーズンの合間をぬって最高の季節となるときく。

4月下旬から5月の連休にかけては、新婚旅行と団体観光のシーズンと重なり、旅行社も、新婚と団体客優先で、この好季節の一般客は、航空券の入手は困難である。

私も2、3度試みたが、望みを達する事が出来なかった。

特に、沖縄本島から←離島間の←南西航空は、住民の足としての利用も多く、此の好季の航空券入手は、ままならぬ様である。

今度蝶友S氏の努力により、長年の望みを達する機会を得た。

1980年4月28日から→5月5日までの予定で、大阪空港より、S氏夫妻と共に、全日空沖縄行き103便に夢を乗せて一路憧の沖縄へ!!

## 南国沖縄

私の夢を乗せた103便は、正午頃つつがなく那覇空港に着く。

石垣島への南西航空の便は、16時過ぎの搭乗券である。

3時間余の待合を利用し、近くを車でひと巡りする。守禮之門での記念撮影。弁財天堂、円覚寺跡など史跡を訪ね、海軍慰霊塔参拝とひと時の観光気分を味わう。

石垣島に着いたのは、17時過ぎとなり、西表島への船便は、すでに終便である。石垣港近くの宮平観光ホテルで一夜を過ごす。

翌29日、始発8時40分の高速船で、西表島に向う。途中、黒島に寄港する。棧橋周辺を種名はさだかでないが、アゲハ、タテハと思ほしき蝶数種がとび交っている。

黒島は、石垣島と→西表島のほぼ中間に浮ぶ周囲、10km程の山もない、平べたい小島であるが、案外多種

の蝶が棲息しているように感じられる。

棧橋を離れた艇は、目指す大原港に向けて白波をけ立て突き進む。30分もすると大原港に着く。

港まで宿の主人が、マイクロバスで出迎えてくれる。大原港は西表島第2の大河仲間川の河口である。港の道路わきに、左豊原2km←右大富1kmの道標が立っている。

車は右大富に向う。すぐ仲間川に出る。橋を渡るともうそこが大富部落である。

私達の宿は、大富部落の竹盛旅館である。車なら港から3~4分のところである。

車を降りると、蝶は何如にと早速辺りを見廻す。宿向いの民家の、生垣に植えられた真赤な一重、八重に黄色を交えたハイビスカスが色鮮かに咲き乱れ、あたかも、ツバベニチョウが吸蜜し、花にたわむれる、の風情であるが…現実はその蝶の姿を見る事はできない。

蝶といえば、宿の自家菜園と思ほしき、キャベツ畑に、数頭のモンシロチョウがたわむれているぐらいだ。

西表島に着けば、そこに無数の蝶が見られるとの期待が打ちひしがれる。あらためて、どの辺りに蝶は棲息しているのか?。思案しながら辺りを見廻していると、どこからともなく、1頭のオオゴマグラが、頭上高く、ふわりふわりと通り過ぎるのを目撃。オオゴマグラだと思わず叫ぶ。

急に元気づき、荷物をかゝえて宿に飛び込み、旅装を解くのもどかしく、ネットを持って飛び出す始末だ。

宿の周辺を駆けめぐり、タテハモドキ、カバネグライシガケチョウ、ヒメアカタテハ等、数種を得てようやく到着を取りもどす。

近くにあると言うので、宿の女将に頼んでおいたレンタカーが届いたので、古見方面へ、亦豊原方面へと車を走らせ、本格的な採集行脚の旅が始まる。

八重山での1週間は、俗世の事は一切忘れ、雨にもめげず、只ひたすら自然の中に身をゆだね、蝶との出会いに限りなき喜びを感じる日々をおくる。

採集の成果は次の表の通りである。

採 集 表

島 名		西 表 島										石 垣 島				計			
月	日	4/29			4/30		5/1	5/2		5/3		5/3	5/4		5/5				
種 名	採 集 地	大富	古見	豊原	大富	古見	大富	豊原	カンピラ	干立	大富	大富	豊原	オモト	川平	バンナー	オモト	川平	
		部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	部落	
1	メスアカムラサキ			3														3	
2	タテハモドキ	4	7	7	6	1	2	2	1	5	1						1	37	
3	アカタテハ																1	1	
4	ルリタテハ																	2	2
5	リュウキュウミスジ	5		1	4		4	2				5					1	22	
6	ヤエヤマイチモンジ												2				1	3	
7	イシガケチョウ	2	1	1		3	1	2		1				2	3	4	1	21	
8	ツマグロヒョウモン									2							1	3	
9	オオゴマダラ	1	2	1			1											5	
10	カバマダラ	1						1		11	1				4			18	
11	リュウキュウアサギマダラ	1	1		1		1			1			3	2	5	1	2	18	
12	スジグロカバマダラ			3	11		12	12		1		7	5	1	5			61	
13	カラスアゲハ		4										2	1	1	2		6	
14	ジャコウアゲハ												1	1	2	4	1	9	
15	クロアゲハ				1	1			1				1		1	4		9	
16	ミカドアゲハ							1					1					2	
17	アオスジアゲハ							2								1		3	
18	アゲハチョウ	1			1				1						1			4	
19	シロオビアゲハ						1							5	1		5	12	
20	ベニモンアゲハ											1						1	
21	ツマベニチョウ												2					2	
22	ウラナミシロチョウ	1		1									1	15			5	23	
23	カワカミシロチョウ					1		5				4						10	
24	ナミエシロチョウ																1	1	
25	モンキチョウ	1																1	
26	タイワンキチョウ												1					1	
27	キチョウ				1							2					1	4	
28	モンシロチョウ				1								1					2	
29	ヒメアカタテハ	2			1								1					4	
30	アマミウラナミシジミ												2				10	12	
31	ヒメウラナミシジミ							6										6	
32	リュウキュウウラボシシジミ							1										1	
33	ウラギンシジミ				1		2					2						5	
34	タイワンクロボシシジミ	1																1	
35	ヤマトシジミ							2	2									4	
36	タイワンアオバセセリ							1										1	
37	ネットアイアカセセリ						3											3	
38	オオシロモンセセリ							3										3	
39	クロセセリ						1	3										4	
40	オキナワビロードセセリ	1															1	2	
41	テツイロビロードセセリ								1									1	
42	ユウレイセセリ							1		2				1				4	
43	ウスイロコマチョウ				1		1		1									3	
44	マサキウラナミジャノメ		2		13		10		1	4					5			35	
45	ヒメジャノメ				6		13	3			3	1	1					27	
計		21	17	17	48	6	51	44	8	29	7	8	15	23	32	24	20	30	
計			55		54		95		44			46			76		30	400	

## 前記採集表の科のまとめ

セセリチョウ科	7種	アゲハチョウ科	8種
シロチョウ科	8種	シジミチョウ科	6種
マダラチョウ科	4種	タテハチョウ科	9種
ジャノメチョウ科	3種		
	計45種	以上	

## 上記蝶の分布について

もとより短日時の採集であり、八重山全島の蝶分布など到底知る由もないが、今回採集地の範囲に於ての体験から感じられた数種について記す。

- 1) スジグロカバマダラ。タテハモドキ。イシガケチョウ。

分布は広く個体数も多い。採集も容易である。但しイシガケチョウは高木に止る事が多いので3m程の竿が必要だ。

- 2) リュウキュウアサギマダラ。

分布は広いが西表島では個体数はまばらである。石垣島バンナ岳山麓ではかなり見られた。

- 3) カバマダラ。オオゴマダラ。

分布は広いが全般に数は少ない様だ。カバマダラは千立に。オオゴマダラは古見周辺でかなり見られた。

- 4) シロオピアゲハ

西表島では少ない様だ。石垣島では普通に見られ、特に川平に多い。

- 5) ウラナミシロチョウ。ナミエシロチョウ。

西表島では少ない様だ。石垣島川平に多い。両種は住み分けている様だ。

- 6) カワカミシロチョウ。

発生は局部的である様見うけられた。個体数も多くない。西表島豊原、石垣島川平には棲息している。

- 7) メスアカムラサキ。

発生は局部的で個体数も少ない。豊原には棲息している。

- 8) ヤエヤマイチモンジ。

分布はさだかでないが、オモト岳、バンナ岳には棲息している。

- 9) リュウキュウミスジ。マサキウラナミジャノメ。ヒメジャノメ。

分布はかなり広い様だ。特に西表島大富部落周辺に多く見られた。

- 10) クロセセリ。オオシロモンセセリ。

分布はさだかでないが、西表島豊原には棲息している。

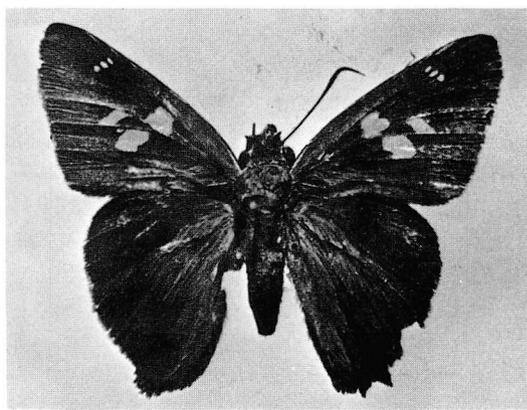
- 11) ベニモン。カラス。クロ。ジャコウアゲハ。

ベニモンアゲハは個体数は少ない。其の他は分布広く普通に見られる。

其の他の蝶については、犬も歩けばで……足で精神的に行動すれば採集出来る。

- 12) テツイロビロウドセセリ

西表島千立部落で採集したが、これ以外には見られなかった。



思い出のひとつま

5月2日、西表島最大の川浦内川河口にかかる浦内橋の袂から観光ボートで、マリユドウ。カンピラー滝の探勝に出かける。乗船客はS氏夫妻と私の外は7~8組の新婚カップルだ。新婚カップルに囲まれてしばしの観光気分ひたる。

両岸には熱帯、亜熱帯樹が生い茂り、川面に影を落とし、新しく架け替えられた浦内橋の赤く塗れた橋げた純白の欄干が青く澄み渡る川面に映え、ひときわ鮮やかだ。

ボートはこの清流を白波を立てながら、兩岸の眺めを刻々と変えながら、中流にある軍艦岩まで遡上する。

舟着き場に近づくと、棧橋周辺の岸べに、ミカドアゲハか？アオスジアゲハか？さだかでないが、飛び交っている。

蝶の姿を見ると、もう辺りの景色など眺めるゆとりなどなく、ただ蝶の姿を追い求める始末である。

ボートの発着は定期的でなく、客の都合に合わせるらしく帰りは何時にするかと船頭が聞く。乗客全員の合議で12時発と決る。時計を見ると12時迄には2時間程だ。カンピラー滝まで徒歩で40～50分と聞く。

飛んでいる蝶も気になるが、折角ここまで来たのだからと、カンピラー滝まで急ぎ登る事にする。

新婚カップルの足元は、サンダルやハイヒールが多い。あんな恰好で登れるのかと、他人ごとながら気になる。

蝶や何如にと辺りを見廻しながら登って行く。晴ていたのが、いつの間にか雲がかかり、山合はうす暗く蝶の姿はあまり見当らない。25分程登った頃、マリユウドウ滝に出会う。幅20m程の瀑布だ。周辺でクロアゲハ、シジミ蝶を見かける。さらに15分行くとカンピラー滝につく。滝と言うより幅広く流れる激流と言う感じだ。飛沫が川面を白くただよっている。

新婚カップルは、あたりの岩場に腰をおろしなやかにむつまじげに語り合っている。

記念に写真を2～3枚とると、もう辺りの景観より蝶の方に気が行く。

下山しながら採集と、早々と滝を後にする。天候悪く蝶に出会はないま、マリユウドウ滝まで下つて来ると、リュウキュウアサギマダラがふわりと飛び出し、ようやく1頭をものにする。空模様いよいよあやしくついに雨がぱらつき始める。

採集をあきらめ、急ぎ舟着場へと引かえすと、幸いにも雨があがり、薄日が差し始める。

しばらくすると、崖上の茂みから、ミカドアゲハとアオスジアゲハが舞い降て来る。蝶道と思ほしき場所を選び採集を試みる。幾度かの失敗を重ねながら、どうにかミカドアゲハとアオスジアゲハを1頭づつものにした頃には、後から引揚げて来た新婚カップルはすでに乗船し出舟を待っている。もうこれまでと、あきらめネットをたたみ、船に乗りうつると、別れをおしむかの様に1頭の蝶が舳と、棧橋の間をくるくると舞い始める。しばらく眺めていたが、一向に飛び去ろうとしない。もう我慢ならず今しまったばかりのネットを取り出し、なりふりかまわず一振すれど、ボートのゆれに、足をとられ失敗。そのまゝ飛び去ると思し

や、また舞いもどつて来る。今度こそはと、精こんこめネットを振る。今度はいまネットイン、瞬間新婚カップルから一斉の拍手がわき起る。ミカドアゲハと思しや、アオスジアゲハで残念!!

思い出を乗せて、艇はエンジンの音をひびかせながら川面を下る。

#### あとがき

八重山での採集は、今回初めてであり、唯暗雲の採集行となったが、沖縄土着70余種中45種を得る事が出来、まずまずの成果と思う。

今回採集出来なかった蝶にポイントをしばり、季節を変えもう一度訪ねてみたい。出来れば与那国島まで足を伸してみたいと思う。

HIROSHI YAGI 〒678 相生市

## 沖縄県産ナガサキアゲハ若令幼虫の耐寒性について 広畑政己

1979年11月27日に沖縄本島伊豆味に於て本種の♀を採集し、自宅(姫路市)に持ち帰り、鉢植のレモンで採卵を行った。

母蝶は11月29日～12月1日の間に約50卵程産卵し、その卵は12月中旬に孵化し、12月下旬には2令幼虫となった。

12月末になると気温の方は日ごとに下がり、室内でも10℃以下になる日もあるので、ダンボール箱の中に幼虫のついたレモンの鉢植を入れ、裸電球を点し、暖房を行ったが、低温を補い切れず、気温が8℃以下になると幼虫が葉から落下するようになった。

しかし、7℃～8℃の温度で葉から落下した幼虫は、温度を上げると回復するが、この時期の室外の冷気に数分でも触れると体液を吐き死んでしまう。

気象年鑑1980年版によれば、1980年1月～2月の那覇市に於ける最低気温の極値は10.3℃なので、気温だけから判断すると幼虫でも越冬できそうであるが、この度のように初冬に発生したナガサキアゲハの次の世代のその後の経過が興味深い。

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

# 兵庫県に於けるヒメキマダラヒカゲの 分布と化性について

広畑 政 己

## 1. はじめに

兵庫県下に生息するジャノメチョウ科15種の中で、ウラナミジャノメなどと共に、まだ化性がはっきり解明されていない種にヒメキマダラヒカゲがある。

本種の成虫は、5月下旬から10月上旬頃まで長期間に亘って発生するので、発生期間の長さから判断すると、2化や3化があっても不思議ではないが、越冬幼虫を飼育すると、9月ごろまで分散して羽化することなどから、年1化性なのか、それとも多化性なのかその問題点とされている。

この問題点を解き明かす糸口でもつかめないかと考え、1981年3月中旬から9月まで、数回に亘って野外調査を行った。そして、その時得られた幼虫の飼育結果などから、本種の化性について若干の知見が得られたので、県下に於ける本種の分布と併せて報告した次第である。

尚、本種の食草については、本稿ではクマザサと記載しているが、県下ではチュウゴクザサやヤネフキザサ(チマキザサ)が分布するようで、そのいずれかであると思われる。しかし、同定が難しいので、これらを総称してクマザサとしている。

## 2. 分布について

山本広一(1971)によると、県下に於ける本種の分布は、扇ノ山、須賀ノ山、鉢伏山、段ヶ峰、峰山、砥峰、千ヶ峰、三国岳、粟鹿山、篠ヶ峰、笠形山、妙見山(宝塚)などがあり、高橋匡(1979)によると、蘇武岳、大岡山、杉ヶ沢高原、妙見山(八鹿町)、豊岡市妙楽寺、但東町水石、大屋町天滝、日高町阿瀬溪谷などがある。また、この他の記録としては、高兵<sup>1)</sup>、大野山<sup>1)</sup>、篠山町盃ヶ岳<sup>5)</sup>、城崎町来日岳<sup>2)</sup>、出石町桐野谷<sup>3)</sup>、同町茗荷谷<sup>3)</sup>がある。その後の調査で、波賀町赤西溪谷、原、有賀、音水、東山、加美町鳥羽、山寄上、関宮町葛畑、青垣町大名草、生野町大外、奥銀谷、千種町鷹巣、船越山、西河内、村岡町高津、兎和野高原桂の清水<sup>6)</sup>、温泉町上山高原、夢前町雪彦山、相生市三濃山、安富町鹿ヶ壺、新宮町千本、姫路市書写山、豊富町太

尾、加西市北条町、南光町東徳久などで本種の幼虫や成虫が採集されている。

これらの採集記録のうち、姫路市書写山と姫路市豊富町太尾の記録は小学生の夏休みの作品展の中から見られたもので、木村三郎、相坂耕作の両氏によって標本は確認されているが、採集年月日、採集地はラベルに記入されているものをそのまま引用している。新しく判明した採集記録は次の通りである。

### 〈採集記録〉

波賀町赤西溪谷	幼虫	5-V-1981	広畑政己
〃 原	〃	15-III-1981	〃
〃 有賀	〃	15-III-1981	〃
〃 音水	〃	10-V-1981	〃
〃 東山	〃	12-VII-1981	〃
〃 〃	1♀	12-VII-1981	〃
加美町鳥羽	幼虫	4-V-1981	〃
〃 山寄上	〃	4-V-1981	〃
関宮町葛畑	〃	26-VII-1981	〃
青垣町大名草	〃	4-V-1981	〃
生野町大外	〃	4-V-1981	〃
〃 奥銀谷	〃	4-V-1981	〃
温泉町上山高原	1♂	6-IX-1981	〃
千種町鷹巣	幼虫	12-VII-1981	〃
〃 船越山	1♂	8-VIII-1981	小坂潤一
村岡町高津	1♂	26-V-1981	木村三郎
新宮町千本	1♂	8-VIII-1981	黒田明子
安富町鹿ヶ壺	1♀	15-IX-1981	木村三郎
加西市北条町	1♂	22-IX-1981	花岡 正
姫路市書写山	1♀	2-VIII-1981	西田豊喜
〃 豊富町太尾	1♂	14-VIII-1980	山本和仁
〃 〃 〃	1♀	19-VIII-1980	〃
相生市三濃山	1♂	19-VII-1981	入江照夫
千種町西河内	1♂	4-X-1979	内海功一
南光町東徳久	1♂	27-V-1978	春井博文

これまでの記録はすべて県下の中部、北部からのものであったが、思いもかけなく南部の、それも低標高地の記録が相次いで現れ、高い山に生息する蝶の定説

をくつがえす結果となっている。

県下に於ける本種の垂直分布の下限は、従来標高が700m前後と推定され、平井・吉阪(1957)の盃ヶ岳の記録(300m)などは、付近の標高の高い所で発生したものが降りてきたものと考えられていた。しかし、前述の通り、低標高地からの記録も報告され、原(360m)、有賀(320m)、鳥羽(280m)、奥銀谷(340m)などからは本種の幼虫が多数見つかり、これらの産地は、これまでの垂直分布の推定をはるかに下まわっている。

幼虫を発見したのはすべてクマザサで、波賀町、千種町、青垣町、生野町などでは標高300m付近からクマザサが現れ、その付近から本種の幼虫が見られた。

県下の日本海側では瀬戸内側よりさらに低地にクマザサが生息しており、養父町樽見の標高100mの地点でもクマザサを確認している。

クマザサは県下の産地に広く分布しているので、クマザサの分布から推定すると、前記の産地以外にも、かなり広範囲に本種が生息しているものと推測できる。それらの垂直分布の下限は、県下中部の瀬戸内側では標高300mを前後して、日本海側では標高100m程度まで分布しているものと思われる。

南部の低標高地の記録で、相生市三濃山(280m地点)、加西市北条町(80m)、新宮町千本(160m)、姫路市では太尾と書山(採集地点の標高は不明)があるが、これらの採集された個体は、何かの要因で生息地から移動してきたものか、そこに定着しているかは不明である。もし定着しているとすれば、これらの採集地や近辺の山ではクマザサが確認されていないので、高橋匡(1979)で報告されている、ネマガリダケのような他のササ類を食草としているものと思われる。

飼育の際与えればネザサも摂食し、よく成長するので、これらのササ類を食草として取り入れ、低標高地まで分布していると考えた方が妥当かもしれない。

因みに、南部の採集記録で、本種の生息が確認されている笠形山や雪彦山からの直線距離は、北条町で13km、三濃山で27km、書山で23kmである。

本種は秋に低標高地で採集されることがしばしばあり、放浪性があるのではないとも言われている。これらの点に留意し、食草等も併せて今後調査に当たりたい。

### 3. 飼育と野外観察の結果

県下に於ける本種の分布調査をしている過程で、各時期ごとに、様々な大きさの幼虫を見ることができた。これらの幼虫の大きさだけでは化性を推測することは

できないので、各産地ごとに飼育を行い、その経過と野外での観察の結果を照合してみることにした。

飼育には、横350mm、縦250mm、深さ60mmのプラスチック製容器を使用し、夜間は23時ごろまで60Wの電燈が点る8畳の間で行った。朝は6時ごろに両戸を開けるので、長日条件下での飼育ということになる。

食草にはクマザサを使用し、容器内はよく清掃も行き、新しい葉を充分与えたつもりである。ただ、野外の飼育では幼虫が夏季に死んだり、室内のものでも暑さのためか、盛夏に死ぬ幼虫や蛹が現れた。これは、春季の飼育時にはなかったことで、低標高地の産地が少ないのは、この辺りが原因しているのかもしれない。

飼育の経過については、温度、日長などによっても微妙に変化するが、結果は次の通りである。

#### 例(1) 越冬幼虫の成長は夏の終りまで続く

1981年3月15日に波賀町赤西溪谷の標高600m付近で令数は定かではないが、体長9mm~17mm(9mm:4頭、10mm:6頭、11mm:3頭、12mm:3頭、13mm:4頭、14mm:4頭、15mm:4頭、16mm:1頭、17mm:1頭の合計29頭)の幼虫を20枚のクマザサの葉裏より採集し、自宅に持ち帰り、屋内において飼育を行った。

3月中旬といえども、まだ気温も低く、葉の基部の越冬箇所から動いている幼虫は見られなかったが、室内に置くと温かいので、越冬幼虫はすぐ冬眠からさめ、摂食しはじめた。そして20日後の4月5日には11mm~29mmに成長した。採集した当初は、よく成長していたものとそうでないものとは、8mmの差があったが、この時点では18mmもの差となった。

その後、幼虫は順調に成長したが、個体差はなお顕著に現れ、成長の早いものは、4月13日に蛹化し、5月1日に羽化しているが、成長の遅いものは、早い個体が最初に蛹化した日から3ヶ月も経過した7月14日に蛹化している。しかも、この時点ではまだ4頭の幼虫が残っているという状態であった。

この残った4頭の幼虫は、7月末に蛹化間近で死んだり、蛹化して成虫分化をしているのに羽化しなかったり、8月中旬まで残っていた1頭の幼虫も、結局羽化には至っていない。

一般的に幼虫の發育は不揃いではあるが、飼育をした29頭の幼虫のうち、約80%に当たる23頭が、5月1日から5月末までの1ヶ月間にすべて羽化しており、發育に約3ヶ月もの遅延を生じたのは全体の約20%であった。

## 例(2) 5月上旬は終令幼虫が大半

1981年5月4日に加美町鳥羽、山寄上、青垣町大名草、生野町大外、奥銀谷で越冬幼虫を確認したが、確認できた16頭の幼虫の内、20mm程度のものが2頭あっただけで、14頭は32mm~35mmあり、終令にまで成長していた。

同年5月5日には波賀町赤西溪谷で6頭の幼虫を見つけたが、幼虫の体長は17mmのものが2頭、35mm~39mmのものが4頭であった。5月10日に再度同地を訪れ、前回とは別の場所を調べたところ、27頭の幼虫を発見した。幼虫の体長は17mm~25mmが6頭で、他の21頭は32mm以上の終令幼虫であった。

越冬中の幼虫がどの程度の大きさであったかは不明であるが、前述の通り、5月上旬には大半が終令で、成長に遅延を生じているのは、発見した幼虫49頭のうち約20%にあたる10頭であった。

## 例(3) 7月上旬に孵化した幼虫の飼育の結果

1981年7月12日に波賀町東山の標高660m付近で4mm~12mmの幼虫を30頭採集し、庭に植えているクマザサに25頭と屋内で5頭を飼育した。

庭に出したものは、直射日光の当る場所であったので、幼虫が暑さのためか葉から垂れ下るようになり、数日後見るとすべてが死んでいた。屋内で飼育した5頭の幼虫も、12mm~20mmまで成長したが、8月中、下旬までに死んだものが多く、残っていた幼虫も9月30日に死んでしまった。

この飼育の結果からは得るものが少なかったが、若令幼虫は高温に弱いようで、このことが生息場所が決まる大きな要因になっているのではないかと思われる。

## 例(4) 7月下旬に採集した幼虫の飼育の結果

1981年7月26日に関宮町葛畑の標高460m付近にて15mm~26mmの幼虫を16頭採集し、屋内と屋外で飼育をした。屋外の飼育では、前回の失敗もあるので、日陰のクマザサで行った。途中で死ぬ個体も現れたが、屋内のものが8月17日ごろから蛹化を始め、屋外のものも数日後に蛹化をし、8月27日までにすべて蛹化を完了して、8月下旬から9月上旬にかけて羽化している。

## 例(5) 8月上旬も終令幼虫が大半

1981年8月9日に大河内町砥峰の標高600m付近で卵と成虫と、様々な令数の幼虫で確認することができた。成虫は4頭を発見したが、汚損したのもあれば新鮮な個体もあるという状態で、幼虫に関しても若令から終令までが見られた。しかし、その大半が終令で、若令や卵は極めて少なかった。

## 4. 化性についての考察

野外での観察と飼育の結果は前述の通りであるが、調査が不十分で、化性を断定できるような決定的な知見は残念ながら得ることができなかった。得られた数少ない知見の中から化性を述べるのは、到底無理なことではあるが、問題提起のつもりで敢えて考えを述べてみた。

本種は県下に於ては、5月下旬頃から10月頃まで、だらだらと発生することは周知の通りである。また、飼育をすると、成長に遅延を生じることも、これまでに明らかにされていることである。このようなことから、年1化性なのか多化性なのか計り知れないわけであるが、仮に年1化性であれば、越冬幼虫の成長の早いものから順に、5月下旬ごろから10月ごろまで分散して発生するということになり、早く発生しても2化はしないということになる。そして、翌年も1化になるように、全プロセスのうち、いずれかのステージで休眠することによって成長をコントロールしていかなければならないわけである。このように成長をコントロールしている蝶にオオウラギンヒョウモンがある。県下に生息するオオウラギンヒョウモンは、低地では6月頃から発生するが、山地では7月下旬ごろになる。しかし、越冬幼虫は低地、山地共1令のようで、6月に発生した成虫も、7月下旬に発生した成虫も、ある条件が整わないと産卵はしないようで、オオウラギンヒョウモンの場合は9月下旬以降が産卵時期になっているようである。従って成虫で休眠し、産卵時期を最も適切な時期に合わせているようであるが、ヒメキマダラヒカゲの場合は、休眠というプログラムが備っていないようで、7月12日に孵化して間もない1令幼虫を確認しているし、越冬幼虫の大きさにもかなりの差があるので、年1化という決った化性が備っていることは考えにくい。

これまで得られた知見からは、通常は年2化で、成長に遅延を生じたものは年1化になるのではないかと

推測している。このような観点から話を進めていくと、第1化の発生は、5月下旬から6月末にかけて越冬幼虫の多くが羽化するのではないと思われる。この裏付けとしては、例(1)の越冬幼虫の屋内飼育では、29頭の幼虫(9mm~17mm)のうち、24頭が順長に成長して羽化したこと。例(2)の5月上旬に野外で確認した49頭の幼虫(17mm~25mmが10頭、32mm~39mmが39頭)は、約80%が終令であること。また、最初の発生のピークが6月にあることなどである。

例(1)、例(2)のように成長の遅れた幼虫は、当然発生時期も遅れるわけで、これらの幼虫が1化のピークの終わったあと2化の発生があるまでの間に発生するものと推測しているが、場合によっては、9月~10月まで発生がずれる可能性もある。

次に2化の発生であるが、成虫の2回目のピークは8月後半にあるので、この時期に2化目の発生があると考えている。

8月上旬には例(5)のように、幅広いステージで見られるが、成虫、卵、若令幼虫が調査をした限りでは少なく、ほとんどが終令であった。この多数の終令幼虫は、例(1)、例(2)の結果からも、越冬幼虫と考えるのは不自然で、8月下旬~9月にかけて発生する2化目の個体と思われる。

2化があると推定するもう一つの理由は、例(4)の7月26日に採集した幼虫(15mm~26mm)で、例(2)の5月上旬の幼虫(17mm~39mm)や、例(1)の小さな越冬幼虫の成長は大きな幼虫と羽化期に約1ヶ月の差しか出ていないなどの例と比較すると、7月26日に越冬幼虫と同じ程度の幼虫が多数いるとは考えられないということである。

また、この幼虫は、その後の飼育の結果からも、遅延を生じている幼虫ではないことも判明しているので、例(5)の終令幼虫同様、8月下旬~9月にかけて発生する今年2化目のものと推測できる。

隣接する村岡町高津では、同年5月26日に1化の個体が採集されており、1化目が発生した約2ヶ月後の7月26日に、15mm~26mmに幼虫が成長していたと考えられる。

## 5. おわりに

本稿では本種の県下に於ける分布と化性について、野外での観察と飼育の結果を交えて筆者の考えを述べて来た。

推測のつまるところ、暴論にはなるが、本種の化性

は通常年2化で、1化が5月下旬~6月末に発生し、2化は8月半ば以降9月にかけて発生する。7月~8月上旬の個体は、1化の遅延を生じた個体で、これらの個体は8月下旬~9月にかけても発生することが考えられる。

早く発生した1化の個体からもたらされた次の世代は、8月下旬頃には2化として発生するが、遅く発生した個体からもたらされた次の世代は、その分だけ発生がずれ込み、9月~10月にかけて2化として発生するものもあれば、1化だけで越冬するものもあると思われる。

以上のような推論で終わったわけであるが、越冬幼虫の調査が不十分であること。5月中旬~6月下旬、9月、10月の調査ができていないこと。野外での十分な飼育と累代飼育ができていないこと。時期別の標本の比較ができていないことなど、数え上げればきりが無い程あり、本種の化性を述べるには甚だお粗末で、かえって混乱を招くことになったかもしれないが、問題を提起したということで御了承いただきたい。

このようなつたない小文でも、本種の県下に於ける分布と生活史解明の一助になればこの上ない幸である。末筆ながら本稿を草するに当り、調査に御協力いただいた木村三郎、森下泰治、石井為久の諸氏に感謝申し上げる。また、採集記録を御提供いただいた相坂耕作、内海功一、黒田収、小坂文之、花岡正、入江照夫の諸氏と文献を御恵みいただいた法西定雄氏にお礼申し上げます。

## 6. 参考文献

- 1) 大阪昆虫同好会(1981) 北摂の蝶、大阪
- 2) 木下賢司(1977) 来日岳の蝶 IRATSUME(1):21-32
- 3) 木下賢司(1979) 床ノ尾山の蝶 IRATSUME(3):20-32
- 4) 高橋 匡(1979) 但馬地方の昆虫目録、IRATSUME(3):40-58
- 5) 平井勇・吉阪道雄(1957) ヒメキマグラヒカゲ低地10月の記録、新昆虫10(8):46-47
- 6) 日浦 勇(1969) 日本列島の蝶、大阪市立自然史科学博物館収蔵資料目録、大阪
- 7) 山本広一(1971) 兵庫県の蝶相、月刊むし(3):2-10

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

# 兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布

広畑 政己・佐々木 薫

県下南西部に於ける本種の採集記録は極めて少なく、これまで、佐用町若州<sup>2)</sup>、同町海内<sup>1)</sup>、上月町久崎<sup>5)</sup>の3ヶ所が報告されているにすぎない。

藤岡(1975)によると、国内では普遍的ではあるが、北海道から九州にかけて広く分布するようで、東北の岩手県から長野県にかけての地域には産地も多いようである。また、関東以北では平地にも分布するが、西なるにしたがって山地性の種となっている。

本県に於ても主として山地から本種が発見されており、個体数も極めて少ない種でもあった。ところが、近年山間部の平地からの採集記録も少ないながら聞くようになったことから、県下南西部に於ても、本種が平地にまで広く分布しているのではないかという想定のもとで、この度の調査となったわけである。

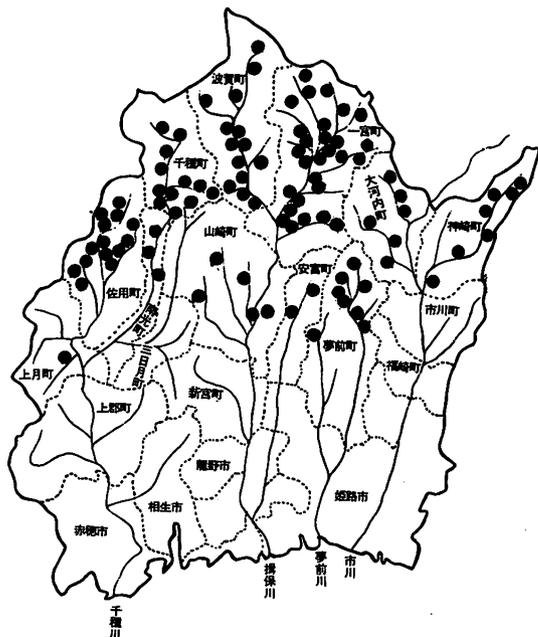
調査に当っては、筆者らと八木弘、川崎悟良、入江日夫、尾崎勇、苦木隆幸、岩村巖の播磨蝶友会のメンバーと、近藤伸一、黒田収、相坂耕作、花岡正、木村一郎、森下泰治の諸氏の御協力を得て、越冬幼虫を探すことから始めた。

調査の結果、96ヶ所の新産地を発見したが、その大半が山間部の民家の庭に植えられたカエデの類から幼虫が見つかり、山地の溪流沿のカエデ類から見つかったのは、一宮町福知溪谷、同町草木、山崎町梯の3ヶ所だけである。これは、山地には生息地が少なということではなく、民家の庭を中心に調査を行ったのでこのような結果になっている。

しかし、自然林が伐採され、カエデの類が残されるようなところは稀で、この度の調査で発見された地の周辺の山は、そのほとんどが杉、桧の植林になっているのが現状である。

宮脇(1977)によると、当地域での潜在植生は照葉樹域で、水辺にはハンノキ林、溪谷周辺にはイロハモジヤケヤキの林があったとされている。それが、森の伐採、火入れ、開墾、道路建設など人為的影響によって自然植生が破壊され、アカマツ、コナラ、アベキなどの2次林と杉、桧などの植林に変遷しているようである。このような自然植生の破壊にもかかわらず、多くの生息地が残されているということは、本種庭木として重宝がられるカエデの類を食樹としていことが幸いしているようである。

ミスジチョウの分布概念図



生息地の状況を見ると、山間部でも山際の民家の庭のカエデ類からは多くの幼虫が見られるが、山からかなり離れた平坦地の庭からも少ないながら本種が見つかる。そして、これらの平坦地は、県道や国道が走り、山地性の蝶の生息場所としては似つかない環境なのである。

カエデの類を食樹としている以上、本来本種の生息場所は、山地の溪流沿ということになるが、食樹の伐採によって生活の場を追われ、運よく民家のカエデ類に遭遇したものが、民家の庭伝いに分布を広げ、平坦地にまで生活の場を広げていったということではないだろうか。特に植林が進んでいる神崎町、山崎町などでは本来の生息場所であった山には食樹がなくなり、帰るあてもなく人里をさまよっているという感はあるが、山間部の民家やその周辺には、必ずと言ってよい程カエデ類が植えられており、薬剤散布さえ免かれれば食樹にはこと欠かない。この度の調査でも薬剤を散布したと思われる剪定した木からは本種は発見されなかったが、このような木は案外少なく、手入がされていない木の方が多い。また、付近には吸蜜できる条件も整っていると思われるので、生活の場としてはさほ

ど支障はきたさず、ホシミスジのように市街地にまで入り込むということもないとは言えない。

県下南西部に於ける本種の水平分布は、福崎町から山崎断層を通り、上月町にぬける中国縦貫道以北の地域で、それ以南では、上月町久崎の記録があるだけである。

中国縦貫道以南の地域で、三日月町添谷、上本郷、下本郷、弦谷と同町の志文川流域、新宮町奥小屋、角ヶ畠、牧、千本、上郡町富満、広根、夢前町の夢前川、菅生川流域の20数ヶ所の調査を行ったが幼虫を発見することはできなかった。また、中国縦貫道以北の市川町、福崎町、岡山県境に近い上月町からも幼虫は見つかっていない。

幼虫が多数発見されたのは、一宮町、波賀町、千種町、佐用町、大河内町などの北に位置する地域で、河川沿の集落を綿密に調査をすれば生息地は点々と連なるものと思われる。採集記録を生息地ごとに1例づつ上げると次の通りとなる。

〈採集記録〉

千種町下河野	幼虫1頭	20-II-1982	入江照夫
〃 七野	〃 7頭	〃	佐々木薫
〃 室	〃 6頭	〃	〃
〃 河呂	〃 1頭	〃	〃
〃 西河内	〃 2頭	〃	〃
〃 黒土	〃 7頭	〃	〃
〃 岩野辺	〃 4頭	〃	〃
〃 内ノ海	〃 1頭	〃	入江照夫
〃 鷹巣	〃 5頭	〃	〃
〃 荒尾	〃 2頭	〃	〃
佐用町若州	1♀	22-VI-1980 <sup>注1)</sup>	広畑政己 <sup>2)</sup>
〃 海内	1♂	11-VI-1961	岩村 巖 <sup>1)</sup>
〃 桑野	幼虫3頭	11-II-1982	佐々木薫
〃 庵	〃 2頭	〃	〃
〃 鴨尾	〃 1頭	25-II-1982	〃
〃 下村	〃 2頭	〃	八木 弘
〃 桑村	〃 1頭	〃	佐々木薫
〃 奥海	〃 3頭	〃	〃
〃 下石井	〃 1頭	〃	〃
佐用町中ノ原	幼虫1頭	25-II-1982	佐々木薫
〃 水根	〃 1頭	〃	〃
〃 下石井	〃 1頭	〃	〃
〃 三山	〃 2頭	〃	〃
〃 中山	〃 1頭	〃	〃
〃 豊福	〃 3頭	〃	〃

注1)広畑(1980)で採集記録が1♀5-VI-1980となっているがこれは誤りで、正しくは前記の通りである。

佐用町平谷	幼虫1頭	25-II-1982	入江照夫
南光町船越	〃 1頭	31-I-1982	広畑政己
〃 川崎	〃 5頭	5-II-1982	佐々木薫
〃 三河	〃 1頭	〃	〃
上月町久崎	—	—	— <sup>5)</sup>
山崎町梯	幼虫5頭	17-I-1982	佐々木薫
〃 五十波	〃 2頭	31-I-1982	〃
〃 塩田	〃 2頭	7-II-1982	〃
〃 上ノ	〃 1頭	1-II-1982	〃
〃 野々上	〃 2頭	18-II-1982	〃
〃 塩山	〃 2頭	11-II-1982	花岡 正
安富町鹿ヶ壺	1♂1♀	8-VIII-1981 <sup>注2)</sup>	森 康行
〃 皆河	〃 2頭	7-II-1982	広畑政己
夢前町山之内坂根	幼虫6頭	〃	〃
〃 〃 吉田	〃 5頭	〃	〃
〃 〃 馬頭	〃 1頭	〃	〃
〃 〃 我孫子	〃 4頭	〃	〃
〃 〃 立船野	〃 2頭	〃	〃
〃 熊部	〃 1頭	〃	〃
〃 佐中	〃 1頭	〃	〃
〃 文殿	〃 1頭	〃	〃
神崎町新田	〃 2頭	21-II-1982	〃
〃 作畑	〃 1頭	〃	〃
〃 大畑	〃 1頭	〃	〃
〃 越知	〃 2頭	〃	〃
〃 岩屋	〃 1頭	〃	〃
〃 根宇野	〃 2頭	〃	〃
〃 福本	〃 1頭	〃	近藤伸一
大河内町川上	2♂	14-VI-1975	広畑政己
〃 長谷板屋	〃 2頭	6-II-1982	〃
〃 〃 本村	幼虫3頭	〃	川崎悟良
〃 南小田日和	〃 4頭	〃	広畑政己
〃 上小田小原	〃 2頭	〃	〃
〃 宮野	〃 3頭	〃	佐々木薫
一宮町福知	幼虫3頭	24-I-1982	広畑政己
〃 黒原	〃 3頭	〃	〃
〃 千町	〃 1頭	6-III-1982	佐々木薫
〃 下千町	〃 3頭	〃	〃
〃 草木	〃 1頭	〃	〃
〃 上岸田	〃 1頭	24-I-1982	広畑政己
〃 百千家満	〃 1頭	〃	〃
〃 下三方	〃 1頭	〃	黒田 収
〃 三方	〃 1頭	2-II-1982	佐々木薫

注2) 鹿ヶ壺の採集記録は小学生の夏休みの作品展に出品されたもので、木村三郎氏によって標本は確認されているがデータはラベルに記入されているものをそのまま引用している。

宮町東河内	幼虫 8 頭	2-II-1982	佐々木薫
" 上野田	" 1 頭	"	"
" 下野田	" 2 頭	"	入江照夫
" 能倉	" 3 頭	"	佐々木薫
" 志倉	" 1 頭	7-III-1982	"
" 溝谷	1♂	10-VI-1976	尾崎 勇
" 小原	幼虫 1 頭	21-II-1982	川崎悟良
" 西公文	" 2 頭	"	"
" 公文	" 2 頭	"	佐々木薫
" 森添	" 3 頭	"	"
" 河原田	" 3 頭	"	川崎悟良
" 釜河内	" 2 頭	"	佐々木薫
" 高野	" 1 頭	"	"
" 横山	" 1 頭	"	入江照夫
" 富士野	" 2 頭	"	"
" 倉床	" 2 頭	"	川崎悟良
" 福野	" 3 頭	"	佐々木薫
" 西深	" 1 頭	"	川崎悟良
" 福中	" 1 頭	"	入江照夫
" 生栖	" 1 頭	"	"
" 嵯峨山	" 2 頭	"	川崎悟良
" 安積	" 1 頭	"	佐々木薫
賀町赤西溪谷	2♂	10-VI-1980	黒田 収
" 上小野	幼虫 4 頭	14-II-1982	"
" 安賀	" 2 頭	"	"
" 原	" 5 頭	"	相坂耕作
" 水谷	" 2 頭	"	"
" 音水	" 2 頭	"	"
" 流田	" 3 頭	20-II-1982	入江照夫
" 斉木	" 5 頭	"	佐々木薫
" 道谷	" 2 頭	23-II-1982	"
" 石亀	" 1 頭	"	"
" 有賀	" 1 頭	"	"
" 野尻	" 1 頭	"	"
" 林殿	" 1 頭	"	"
" 飯見	" 1 頭	"	"

以上 104ヶ所の産地の内、上月町久崎、安富町鹿ヶ谷、一宮町溝谷以外は幼虫にて生息を確認している。

#### 〈参考文献〉

- 岩村 巖・中谷貴寿(1964) 西播の蝶分布資料(3)、兵庫生物 4(5): 238  
 広畑政己(1980) 兵庫県に於ける蝶 5 種の新産地 てんとうむし(6): 30  
 藤岡知夫(1975) 日本産蝶類大図鑑、講談社、東京  
 宮脇 昭(1977) 日本の植生、学研、東京  
 山本広一(1971) 兵庫県の蝶相、月刊むし(3): 8

## クロコノマチョウを相生市で採集

川崎 悟良

相生市に於てクロコノマチョウを採集しているので報告しておく。

採集したのは、1980年の7月末と10月中旬の2回で、夏型の♂は相生市三濃山の標高300m地点のクヌギ林の近辺で採集している。秋型の♀は、私が勤めている石川島播磨重工の作業場の薄暗い場所での採集で、作業所は前が海、後は山となっている。個体は新鮮なので裏山を調査したが、その後発見していない。

以前にも当地域で採集に失敗したり、目撃したりしているが正確なデータは記憶していない。

また、近隣の竜野市でも、1979年の10月に発見したが、ネットに入れたものの採り逃している。

何時かはこの蝶の発生場所をつきとめる日を楽しみにしている。

#### 〈採集及び目撃記録〉

相生市三濃山	1♂	30-VII-1980	川崎悟良
" 相生	1♀	17-X-1980	"
龍野市龍野町日山	1ex	—X-1979(目)	"

Goro Kawasaki 〒678 相生市

## チャバネセセリの越冬生態

広畑 政己

1980年12月7日に相生市天ヶ台において、本種の越冬生態を観察することができた。

越冬していたのは2令~3令と思われる幼虫で、幼虫はメリケンカルカヤやススキの葉を2枚~3枚綴り合せて巣をつくり、中に潜んでいた。

メリケンカルカヤやススキの葉は枯れていたが、その根元には5cm~10cm程のびた新しい芽があり、幼虫はその芽を綴って巣をつくっていた。

越冬していた場所は、食草が密生しているところは少なく、まばらに生えているような日当りの良い崖に多く見られた。

12月7日は気温も高く、平均気温が7℃、最高気温が14.5℃(姫路市の気温)もあったので、巣から離れている幼虫もあった。

室内で飼育をすると、冬期でも成長するので、このような暖かい日には越冬中でも巣から出て摂食するようである。

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

## ウラナミジャノメの室内産卵の試み

八木 弘

本種は神奈川県以西、四国、九州、対馬、屋久島に産し暖地では年2回の発生(6月~7月、8月~9月)。分布の北限に近い地域や山地では年1回(7月~8月)にあらわれるといわれている。

当地兵庫県相生市では(6月下旬~7月中旬)の間にあらわれ、年1回の発生である。同じ県内でも2化するところもあると聞く。当地での発生時期がそれほどおこなっているともいえないし、亦寒冷地とも思われないのになぜ2化を見ないのか?

蝶友H氏は其の間の実状究明のため、幼虫生態の観察を試みたいので、メスを採集し、産卵させてほしいとの依頼を受け、産卵を試みた。其の観察の一端を記す。

1981年7月2日、メス1頭を採集し、食草のススキを植えた植木鉢に4本の支柱を立て、白色の捕虫ネットをかけ其の中にメス蝶をはなつ。よく観察すると、羽化間もないのか腹部が小さい。交尾していないのではないかとの疑問をもつ。翌3日、オス1頭を採集し夕方同じネット内にはなつ。

翌朝(4日)、椅子に坐りテーブルの上に置いたネット掛けの蝶を眺めていると、ネットに止っているメスへ、食草に止っていたオスが、サッと寄りそい2、3度羽ばたいた瞬間、すでに交尾している。時計を見ると8時30分である。

何時まで交尾するかと椅子から離れず眺めていると約60分間交尾を続けた。

交尾後、約31時間後の6日、15時30分頃より産卵を始めた。其の日の産卵数、13卵。翌7日15卵産卵した時点の18時、再交尾を行った。交尾時間は、実に2時間余の長きに及ぶ。

8日の40卵を最高に、其の後、毎日20卵前後の産卵を続け、産卵を始めてから10日間に、210余卵の産卵をみた。

### 産卵の状況

夕方15時30分頃より~19時の間に産卵を行う様である。(朝方数卵を産卵した日が1日あった)産卵し始めると、2~3分間かくで産卵が行われ、4~5卵産みつけると10~15分は休止し、再び産卵を繰かえす。

### 産卵の場所

食草に産みつけられたのは15%程度で、85%は捕虫ネットの網目に産みつけた。ネットにつかまっただけで産卵がし易い様であった。

### 給飼の方法

産卵させるためには、2週間は蝶が弱らない様飼育せねばならないので、給飼はかかせない。1日に午前午後の2回は必要である。

今回試みた方法は、霧吹きで水を捕虫ネットの上から吹きつけること。蝶が吸蜜したい時は、早速ストロークを伸ばし、ネット目についた水滴を吸い始めるので、小さく切った綿に砂糖水か果実汁を充分ひたし、ピンセットで吸水しているところへ当たると、其のまま吸飼するので簡単であった。

### (参考文献)

白水隆・黒子浩、共著 標準原色図鑑、第1巻

HIROSI YAGI 〒678 相生市

## 一宮町で採集した ゼフィルス数種の記録

尾崎 勇

兵庫県宍粟郡一宮町福中に於てヒロオビミドリシジミが採集されているので報告しておく。また同地でウラミスジシジミ、ミズナラよりジョウザンミドリシジミ、サクラよりメスアカミドリシジミの卵を採集し羽化させているので併せて報告しておく。

採集記録を御提供下さった小柳二三夫氏にお礼申し上げます。採集記録は次の通りである。

### 〈採集記録〉

ヒロオビミドリシジミ…2♂14-VI-1981 小柳二三夫  
ウラミスジシジミ…2♂1♀ 20-V-1980(羽化) 尾崎 勇  
ジョウザンミドリシジミ…1♂ 23-V-1980(羽化) 〃  
メスアカミドリシジミ…5♂7♀ 5-V-1980(羽化) 〃

Isamu Ozaki 〒673 明石市

## 夏期採集大会報告

## 夏の三濃山で行う

苦木隆幸

我々の会では年間行事のひとつとして、採集大会を行うことにしている。常日頃は各自で気のおもむくままに行動をし、採集を通して気分の転換や体力作りに励んでいるが、会員全員が話し合う機会は、なかなか持てないものである。採集大会はそのようなことを解決すると同時に、定めた目的地にその時期に何種類の蝶が生棲しているかを知ること等、興味ある調査結果も得ることができる。

56年度は播磨蝶友会の、ふるさとでもある相生市の三濃山を選び、つゆ明けの夏空のもと開催した。

日時／7月19日 AM 8～PM 3

場所／三濃山全域

賞／多種採集賞 1位～3位

特別賞 ムラサキツバメシジミ採集者

参加者氏名

入江照夫、尾崎勇、川崎悟良、佐々木薫、  
苦木隆幸、広畑政己、八木弘。

採集された蝶

アゲハチョウ科

- (1)クロアゲハ、(2)アオスジアゲハ、(3)キアゲハ、(4)アゲハ、(5)オナガアゲハ、(6)ミヤマカラスアゲハ、(7)ナガサキアゲハ

シロチョウ科

- (1)モンシロチョウ、(2)スジグロシロチョウ、(3)キチョウ

シジミチョウ科

- (1)ウラナミアカシジミ、(2)トラフシジミ、(3)ツバメシジミ、(4)ベニシジミ、(5)ムラサキシジミ、(6)ヤマトシジミ、(7)ウスイロオナガシジミ、(8)ウラナミシジミ、(9)ミドリシジミ、(10)ルリシジミ

タテハチョウ科

- (1)ホシミスジ、(2)サカハチチョウ、(3)アサマイチモンジ、(4)イチモンジ、(5)ツマグロヒョウモン、(6)メスグロヒョウモン、(7)ミドリヒョウモン、(8)オオウラギンシジミヒョウモン、(9)ウラギンヒョウモン、(10)ヒ

オドシチョウ

ウラギンシジミチョウ科

- (1)ウラギンシジミ

テングチョウ科

- (1)テングチョウ

ジャノメチョウ科

- (1)ヒメウラナミジャノメ、(2)ヒメジャノメ、(3)ジャノメチョウ、(4)クロヒカゲ、(5)ヒメキマグラヒカゲ

セセリチョウ科

- (1)アオバセセリ、(2)ダイミョウセセリ、(3)オオチャバネセセリ、(4)イチモンジセセリ、(5)コチャバネセセリ、(6)ホソバセセリ、(7)ヘリグロチャバネセセリ

全員で採集した数は以上8科44種で、目撃したものは、カラスアゲハ、モンキアゲハ、オオムラサキ、キタテハ、ルリタテハ、スジボソヤマキチョウの6種が確認されている。

我々が目指したムラサキツバメシジミは採集できなかったが、夏の1日を有意義に過ごすことができた。

大会成績は下記の通りです。

多種採集賞	1位	広畑政己	26種
	2位	佐々木薫	24種
	3位	入江照夫	22種
	〃	苦木隆幸	22種

又、蝶の密度を知るために参考までに分析結果を示します。

100%採集〔参加者全員が採集した種類〕

モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キチョウ、コムスジ、ベニシジミ、ムラサキシジミ、ヘリグロチャバネセセリ、ヤマトシジミ、ホソバセセリ、イチモンジセセリの以上11種である。

逆に30%以下〔2人以下が採集した種類〕

キアゲハ、アゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、ヒメジャノメ、クロヒカゲ、ヒオドシチョウ、ホシミスジ、ウラギンヒョウモン、オオウラギンヒョウモン、メスグロヒョウモン、トラフシジミ、ウスイロオナガシジミ、ウラナミシジミ、ミドリシジミ、ルリシジミ、コチャバネセセリの18種類であった。

TAKAYUKI NIGAKI 〒675-15 姫路市

## 蝶の斑紋異常型12例

広畑 政 己

筆者の手許にある標本の中に、斑紋異常型があるので、次の通り報告しておきたい。

標本を御恵与いただいた石井為久、入江照夫、近藤伸一、高島千洋、中村久幸、八木弘、吉田豊の諸氏の御厚意に感謝申し上げます。

### 1. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

前翅裏面中室の黒斑の内側に黒点が現れている。本種の裏面の斑紋には変異が多く、黒帯が内側に広がったもの、後翅前縁基部に黒斑があるものなどいろいろあるが、これらは主として北海道、東北などの寒冷地に多いようである。

東北以西でもときどき採集されるようであるが、当地域では、このような個体の採集例を聞かないので記しておく。

兵庫県西宮市甲山 22—VI—1980 近藤伸一

### 2. ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri*

後翅裏面の後角にある橙色紋が黒色に置き換っている。

鳥取県大山 4—VII—1976 吉田 豊

### 3. ミヤマシジミ *Lycaeides argyrognomon*

後翅裏面亜外縁の橙色紋の内側の黒斑が1a室から7室にかけて内側に流れている。

長野県上伊那郡宮田村 28—VIII—1979 広畑政己

### 4. クロツバメシジミ *Tongeia fischeri*

後翅表面亜外縁の半月状紋の内側にも斑紋が現れた個体である。

12頭羽化した中に3頭このような個体があったが

裏面には特に異常は認められない。

この個体は10月～11月に飼育したもので、自然状態では羽化はしないと思われる11月末に羽化しており、低温がこのような斑紋を誘発したのかもしれない。

長崎県下県郡大舟越 29—XI—1981 (羽化)

### 5. シルビアシジミ *Zizina otis*

後翅裏面前縁の黒斑が流れており、6室の黒斑も消失している。

熊本県阿蘇山 10—IX—1971 高島千洋

### 6. ルリシジミ *Celastrina argiolus*

前翅裏面亜外縁の斑紋と後翅裏面4室から7室にかけての斑紋が消失している。

熊本県阿蘇山 25—VI—1980 (羽化)

### 7. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

近藤伸一氏がタブノキから幼虫を採集し、飼育された中から羽化したもので、スルスミ型の痕跡が5室から8室にかけて現れた個体である。

この他にもう1頭前翅先端の青色紋が黒色に置きかわった個体が同時に羽化している。

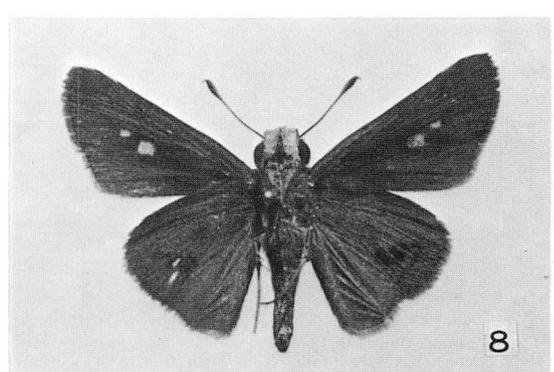
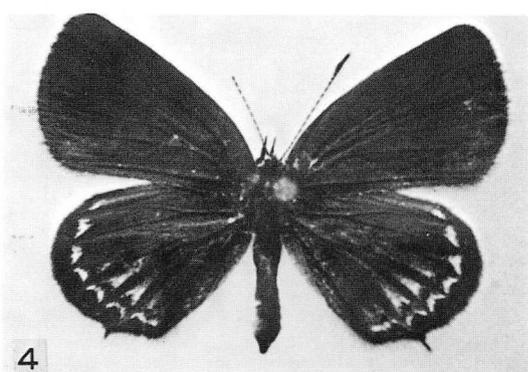
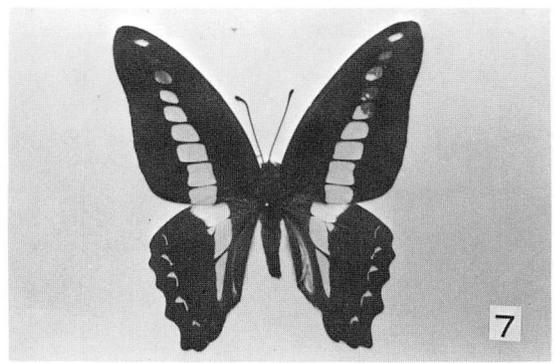
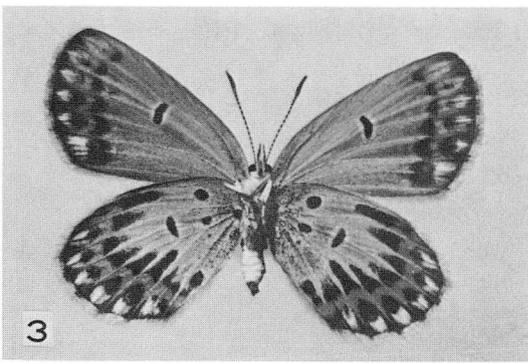
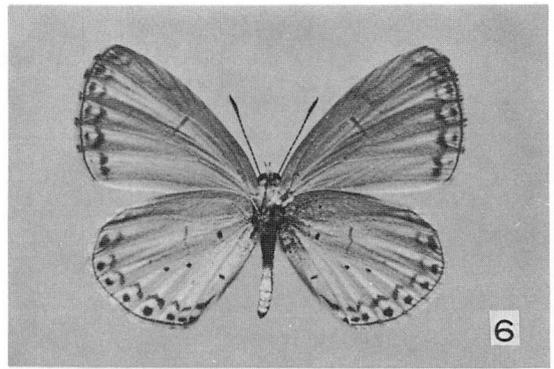
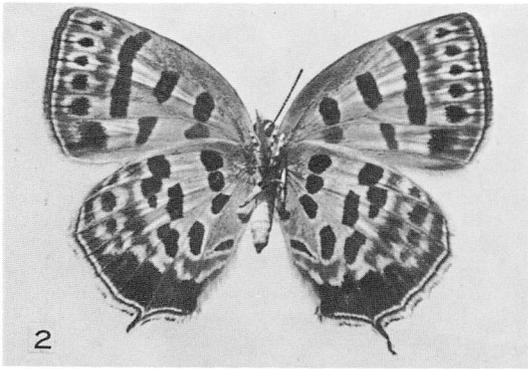
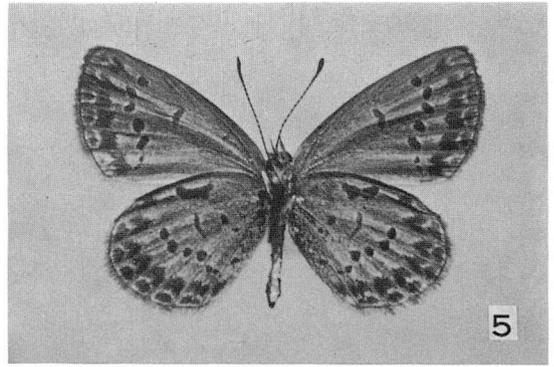
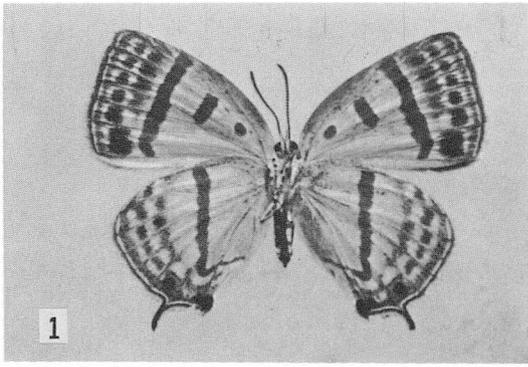
当地域ではこれまでに、前翅中室内に斑紋が現れた個体(エサキ型)と前翅先端の斑紋が2つに分かれた個体(ハンキウ型)などが相坂(1980)入江(1979)などで報告されているが、スルスミ型やそれに近い個体の採集例はこれまでにないと思われる。

兵庫県高砂市伊保 12—VIII—1981 (羽化)

### 8. イチモンジセセリ *Parnara guttata*

後翅裏面の白斑が黒色に置きかわっている。また前翅裏面の白斑も一部消失している。

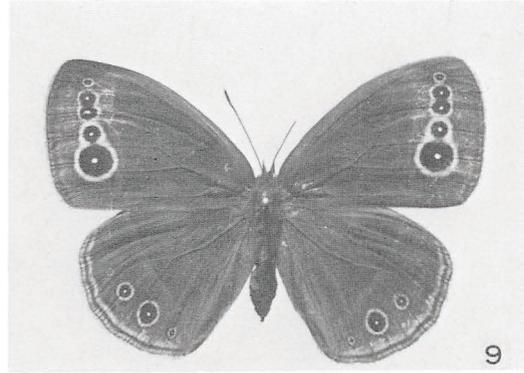
相生市天ヶ台 28—VIII—1980 入江照夫



9. コジャノメ *Mycalesis francisca*

前翅に眼状紋が多く現れた個体。

兵庫県福崎町七種山 1-VI-1975 石井為久

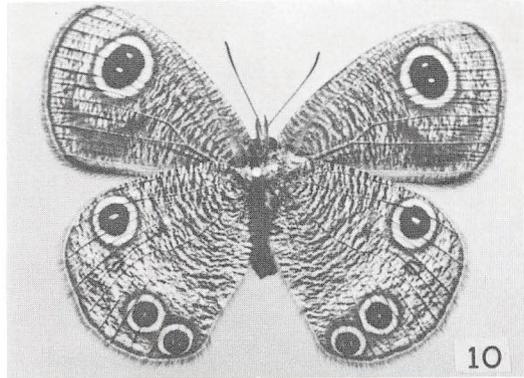


10. ウラナミジャノメ *Ypthima motschulskyi*

後翅裏面4室に眼状紋が現れている。この個体は8月上旬の幼虫期に冷蔵庫に約13時間入れた後、長日条件下の室内で飼育をしたためか、自然状態では考えられない冬期に羽化したものである。

眼状紋が1つだけ多いという程度では異常型とはいえないかもしれないが、本種はヒメウラナミジャノメのように個体変異は多くなく安定しているので、斑紋が多く現れた個体として記録しておく。

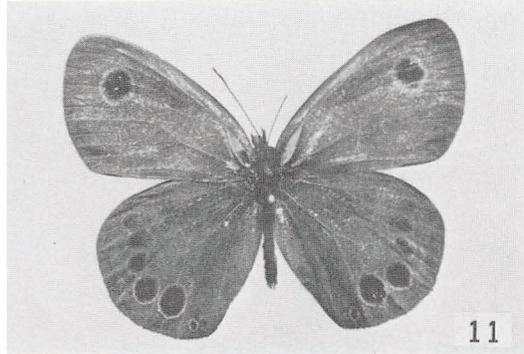
相生市天ヶ台 20-XII-1981 (羽化)



11. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima angus*

後翅表面に黒斑が多く現れた個体。本種の春型には個体変異が多いようで、後翅裏面の4室7室に斑紋のある個体なども所持している。

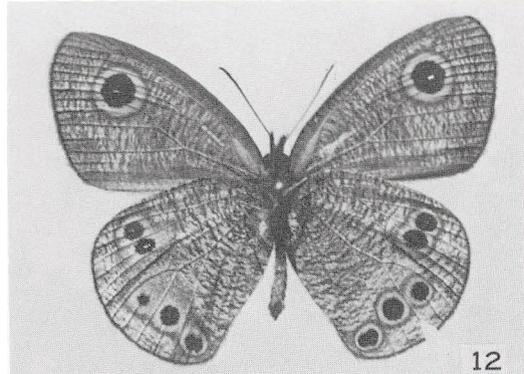
愛知県南設楽郡細川 11-V-1975 中村久幸



12. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

後翅裏面の眼状紋が流れている。

兵庫県市川町上牛尾 16-V-1975 広畑政己



〈参考文献〉

- 1) 相坂耕作(1980)姫路市産アオスジアゲハ異常型の調査 てんとうむし (6): 28
- 2) 入江照夫(1979)室津の異常型アオスジアゲハ ひろおび (4): 14-15
- 3) 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑 保育社 大阪
- 4) 藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑 講談社 東京

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市

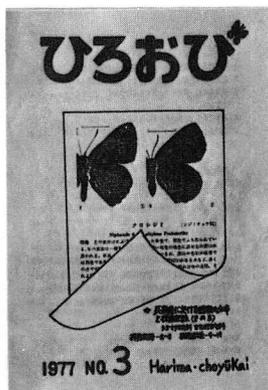
総  
目  
次


- o.1. (1976) 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録  
(その1) アゲハチョウ科、シロチョウ科  
分布図…3P～7P 月別採集数表…8P～11P



- o.2. (1977) 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録  
(その2) タテハチョウ科、ジャノメチョウ科、マダラチ  
ョウ科、テングチョウ科、ウラギンシジミチョウ科  
分布図…2P～16P 月別採集数表…17P～26P

- o.3. (1977) 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録  
(その3) シジミチョウ科、セセリチョウ科  
採集記録…2P～8P 月別採集数表…9P～19P



## No.4. (1979)

岩村 巖：西播の蝶分布資料(6)：赤穂市の蝶類…1P  
～9P

八木 弘：蝶に誘われ山野を駆ける…9P

広畑政己：兵庫県のクロツバメシジミ…10P～14P

入江照夫：室津の異常型アオスジアゲハ…14P～15P

入江照夫：キチョウの雌雄型…15P

尾崎 勇：ツマグロヒョウモン♀の斑紋異常型…16P

佐々木薫：ヒメシジミの異常型…16P

広畑政己：エゾスジグロシロチョウの採集記録一例…16P

苦木隆幸：ゼフィルス越冬卵の採卵記…17P～18P

広畑政己：安富町大河弁獄7月上旬の蝶…18P

佐々木薫：キリシマミドリシジミの飼育について…18P～  
19P

広畑政己：12月に見かけた蝶数種について…20P

佐々木薫：ヤナギを食べたモンキアゲハ…20P

広畑政己：兵庫県に於けるツマグロヒョウモンの越冬  
生態…21P～22P

岩村 巖：兵庫県西部のヒロオビミドリシジミの分布  
に関して…23P～24P

川崎悟良：相生市の蝶…24P～25P

広畑政己：越冬していたウラナシジミ…25P

尾崎 勇：兵庫県のギフチョウ…26P～34P

広畑政己：冬期に羽化したツマグロヒョウモン…34P

尾崎 勇：兵庫県南部のコムラサキの4化について…  
35P～36P

播磨蝶友会会員名簿…37P

## No.5. (1980)

表紙説明…1P

岩村 巖：西播蝶分布資料(7)…2P～9P

広畑政己：兵庫県のナガサキアゲハ…10P～17P

川崎悟良：ヒロオビミドリシジミの新産地…18P

入江照夫：シルビアシジミの飼育日記…18P

八木 弘：蝶の飼育を試みて…19P～20P

苦木隆幸：姫路市御立北山の蝶…21P

広畑政己：ツマグロヒョウモンの越冬と温度について  
…21P

入江照夫：蝶2種の飼育による観察から…22P

広畑政己エゾスジグロシロチョウの採集記録数例…22P

佐々木薫：宍粟郡一宮町にヒサマツミドリシジミを求  
めて…23P

広畑政己：ギフチョウの斑紋異常型…23P

尾崎 勇：兵庫県の蝶(1)…24P～30P

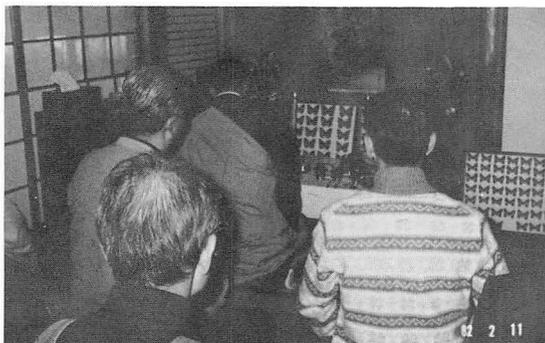
播磨蝶友会会員名簿…30P

## 播磨蝶友会合同蝶供養開催す

## 播磨蝶友会会員名簿

去る57年2月11日午前9時より佐々木氏宅に於いて大島山善光寺住職をお願いし、播磨蝶友会全員出席のもとで、蝶の供養を行った。

数年から数十年の永きにわたって各々の会員が蝶の魅力に取りつかれ夢中の内に殺生を繰返して来たその業の深さに気付き、いつときではあったが会員一人一人が焼香し心よりその供養を行った。



## □ 編集後記 □

これまでは兵庫県の蝶をテーマとして会誌を発行してきたが、この度は趣を変えて、八重山の蝶特集となった。

蝶の楽しみ方もいろいろあって、学問的に深く蝶と係わりを持つのも楽しいが、美しい蝶を集めるのも楽しい。探し求めた蝶をネットインした時のあの感激はいつまでも忘れることができない。親しい蝶友との採集行もまた格別である。このような思いを活字で残しておこうということで今回の企画となった。

発行はかなり遅れたが、その分だけページ数も増え、内容もバラエティーに富んだ号になったと思う。今後このような企画を組んで行きたいと考えている。

今回も表紙を何にしようかと苦労したが、八重山諸島から飛び立つコノハチョウにした。表紙の文は、新星図書のカラー百科シリーズ「秘境西表島」から転載させていただいた。また、表2の石垣島と西表島の図は、内田老鶴園新社の新しい昆虫採集地案内(Ⅲ)から転載させていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

ひろおび(播磨蝶友会誌) No.6

発行者/播磨蝶友会  
〒678 相生市

佐々木薫方

発行年月日/1982年5月1日

編集者/広畑政己

印刷所/西播印刷所

〒670 姫路市保城377-14

目 次

八重山の蝶	岩村 巖	1
八重山の蝶類採集記録(1980)	佐々木薫	15
石垣島晩秋の採集記	入江照夫	24
八重山諸島に蝶を訪ねて	八木 弘	27
沖縄県産ナガサキアゲハ若令幼虫の耐寒性について	広畑政己	30
兵庫県に於けるヒメキマダラヒカゲの分布と化性について	広畑政己	31
兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布	広畑政己・佐々木薫	35
クロコノマチョウを相生市で採集	川崎悟良	37
チャバネセセリの越冬生態	広畑政己	37
ウラナミジャノメの室内産卵の試み	八木 弘	38
一宮町で採集したゼフィルス数種の記録	尾崎 勇	38
夏期採集大会報告・夏の三濃山で行う	苦木隆幸	39
蝶の斑紋異常型12例	広畑政己	40
ひろおびNo.1～No.5・総目次		43
播磨蝶友会合同蝶供養開催す		44
播磨蝶友会会員名簿		44